

日本女子大学社会福祉学科50年史（二）

－社会事業学部時代－

社会福祉学科50年史編纂委員会

はじめに

大正10年（1921年）10月、社会福祉学科の前身、社会事業学部が発足した。創立者成瀬仁蔵の意志がうけつがれ、二代目学長麻生正蔵の決断によるものであったが、前号でものべたように、既に社会事業にかんする講座は大正7年より、生江孝之担当によって開かれていた。その影響もあって学内の教授、卒業生、在学生のなかに社会事業への関心や活動がしだいに活発になっていた。

一方、大正デモクラシーのもとで、米騒動を契機に成立した日本の社会事業のなかで科学化、専門化をはかるために、多くの働き人をもとめる機運にこたえる意図も、大きかった。その創立時の状況および学生また初期の卒業生が、どのような生活をおくりまた学習の成果をあげていったかを、以下、資料を通じて紹介するのがこの稿の目的である。

なお集録にあたって、とくに注意した点は前号にひきついで、つぎの諸点である。

- (1) 集録した資料は、おもに日本女子大学内のものと、今回社会事業学部時代の卒業生に対して行った調査から得たものである。印刷の関係上、主要なものだけを掲載した。
- (2) 掲載できない資料は、リストにして示した。
- (3) カナ使いなどは、できうる限り原文に忠実に掲載した。印刷の関係上、旧漢字を現在使用されているものになおした。

1. 創立の趣旨と始業式

大正10年8月12日、卒業生の団体桜楓会発行の『家庭週報』に、麻生校長は「時機は今や正に熟し来た」とつぎのような文を発表している。

社会事業学部開設の趣旨

日本女子
大学校長 麻 生 正 蔵

世界大戦以来、我が国に於ける社会的動揺変転は実に激甚を極め豫想を絶し、人をして瞠目驚心せしめるものがある。欧米民族が幾十年を費して到達した歴史を一足に飛び超え、まだ殆んど何等の準備も出来て居ない社会が、突如として激動の渦中に拖きこまれたのであるから、其の混雑と不安とが欧米以上に熾烈であり、従って其影響が善悪共に甚大であるのは、蓋し当然なことであろう。要するに、現代は一大飛躍進展の時代であると同時に、又錯雑混乱の時代である。而して経済界の変調と思想界の動揺とより来る国民生活の脅威は、時々刻々危険の極点に向って突進しつつある。

此の前代未聞の危機に際して、激動の危険を除き、勢力の浪費を省き、生活の安全を保護し、国民の能率を増加し、以て国家の将来を幸福繁栄の一路に導くが為にはあらゆる方面から徹底的に尽力する方策を遺漏なく講じなくてはならぬ。之を一言にすれば、社会生活の整理改善の為に、諸有主段を講じなくてはならぬ。而して直接に社会生活の整理改善に預る事業は、即ち所謂社会事業である。

然るに、此の社会生活の整理改善は独り男子のみの事業でなく同時に又婦人の事業である。蓋し今や理論上婦人が社会に於て男子と協同者たるべき時運に到達したばかりでなく、實際上社会状態が複雑微妙になった結果、女子の参加なくしては、十分に其の整理改善の実を挙げ難くなったのである。否、婦人の性情は最もよく社会事業に適するが上に、其教育も向上発展した關係上、婦人の助力なくしては到底社会事業は其の効を十分に奏し得ないことになった。本邦に於ても従来慈善事業のある部門に於て、婦人が多少社会事業に携はって居たのであるが、現に欧米に於ては、婦人が社会事業の各方面に大に其の実績を挙げているのである。而して我国に於ても、今や既に婦人社会事業家の要求が盛に現はれて来たのである。

併し今後の社会事業の施行は従来のもとは著しく其の意味と形式とを異にしたものでなくてはならぬ。第一に、従来社会事業は皮相の一小部分に関するもので甚だ散漫な偶然的なものであったのであるが、今後は全般から打算された十全の目的と計画とを有し確乎たる組織的機関に依って行はれるところの系統的活動であらねばならぬ。第二に、従来社会事業は一部の人の片手間の思ひ付きで、極端に言へば、無自覚な遊戲的の仕事も少くなかった。併し今後のそれは、社会の意義と現状とに関する精確な知識と各人の責任と技能との自覚とから起る必然的の労作であって、全社会の人が之に関心しなければならないと同時に、少くも其中心には、一意専心之に従事する斯道に熟達した黒人たる専門家の存することを要する。第三に、従来社会事業は多く社会の欠陥暗黒面に対する消極的の慰安保護の一助と与ふるに過ぎなかったのであるが、今後のそれは寧ろ社会の正常なる状態を更に醇化し、精鍊して、国民全体の健康と道徳と能力と幸福とを増進する積極的生産の事業たることを要する。

第四に、従来の社会事業は常識と感情とに基く閑散事業であったが、今後のそれは十分な科学研究に基くところの学術的の緊密事業でなくてはならぬ。第五に従来の慈善事業は社会の上位にある少数有志者が憐憫の情に駆られ下位にある少数者に向って行ふ個人的好意的の恩恵行為であったが今後の社会事業は社会国家が其の組織の各部要素に対する改善の計画を実行する機関として、社会に対して奉仕する為の合法的實務行為でなければならぬ。第六に、従来の慈善事業は社会に実功を現はすよりも、寧ろ其の実行者が道德的修養又は社会の道德的教化に価値を置いて居たのであるが、今後に於ては、それは一個の實務的事业として、確實に具体的実功を奏し得る施設でなくてはならぬ。要するに、過去の慈善事業と現代の社会事業とは斯の如くに其の特徴を異にするものである。

現代に要求される社会事業の特質が既に前述の如きものである以上は、一方其の制度組織に就て十分な研究を経なくてはならぬと、同時に、他方には、是非とも斯道の専門家を特に養成する手段を講ぜねばならぬ、併し専門の社会事業家を養成するのみに止めず、尚進んで社会生活改善事業の性質と価値と其の方法に関する知識とを、汎く社会に普及し、之が必要と興味とを一般に知らしめて、間接に斯業を後援せなくてはならぬ。而して此の社会事業に関する一般的教育は其性情地位職務上よりして、男よりも寧ろ女子に必要で且つ適切である。婦人は其の性情上男子よりも一般に社会事業に適すると同時に、社会事業にも亦特に婦人に適するものが少くない。中に就ても児童の哺育教養と女工の指導教化保安との二方面に関するものは、其の最たるものである。而して、この二方面の社会事業は目下特に其の急務を要するものである。之れ今回本校が社会事業学部増設に際し、児童保全科と女工保全科とを併置する所以である。

児童の保育教養は社会の上中下の差別なく、従来家庭の仕事であつて、全然父母の責任内にあつたが、今や社会の状況は之を父母家庭の自由のみ放任することが出来なくなった。蓋し動物的筋力よりも、人格的知能を要する生活様式が頗る深刻微妙に発達した文化國民の向上繁榮は、口数の饒多よりも寧ろ其の性質の優秀に依存するのであるから、国家社会の要求として其の組織員たるべきものゝ教養に、生誕當時から、否寧ろ結婚懐胎の始めに遡って関与しようとするのは、蓋し極めて当然のことであらう。

然るに我國に於ける幼児、特に五歳以下、就中一歳未満の乳児の死亡率の高大は遙かに他の文明諸國に冠絶して居るのである。大正三年度に於ける一歳未満の乳児の死亡率は、死亡総数千に付、二百六十二人強であつて、五歳以下の嬰兒のそれは、三百九十六人である。而して此処に最も注目すべきは、此等の死亡中、豫防的衛生によって救助し得べきもの十中八九に居る事である。今一歳未満の乳児の生産千に対する死亡率の内外比較を試みれば左の如くである。

国 名	年度	死亡率
ニュージーランド	一九一七年	四八
濠州聯邦	一九一五年	六八
諾威	一九一四年	六八
瑞典	一九一三年	七〇
愛蘭士	一九一三年	八三
ネザランド	一九一五年	八七
瑞西	一九一四年	八七
デンマルク	一九一五年	九五

英蘭及威爾斯	一九一六年	九一
北米合衆國	一九一六年	一〇一
日 本	一九一四年	一五九

斯様に我國幼児死亡率は高大であるばかりでなく、寧ろ年々高進の傾向を示して居ると云ふことは實に人口増加率に影響を与ふるのみではない。一般児童の養育法に欠点の大なるものあることを示し従つて率にも生存成長する児童も總て悉く心身上に何等か多少の欠陥を負ふて居ることを豫料させるのである。而して此の生存者が即ち次代の國民となるのであるから、幼児養育上の不備は實に広汎なる範圍と、長久の時日とに亘つて、甚大なる損害を國家社会に負担させる結果になるのであつて、社会の不健全なる種々相は、實に是処に其根本を有すると言つても過言ではない。此の意味から見ると、児童教養の十全を期することは、父母と子女との幸福、死亡率減少等の問題に止まらない。更に重大なる國家問題であつて、國民生活改善法中の最も根本的のものである。若し國民生活の第一歩を此所に誤るならば百の社会政策も千の生活改善も、何等の効もなく産業の發展も、文化の向上も、一場の夢に過ぎないで、幾百萬のも、幾百千の體験も、かゝる國家の自滅を救ふの力を有しないのである。是れ従来の如く、児童教育を全然各家庭父母の自由のみ委任しないで、國家は根本的の社会政策として救済の道を講ずるに至つた所以である。總じて幼児死亡率は、家庭の収入の多少に反して高下し、貧民になる程高まるものであるが、之れ主として、下流社会の婦人が産前産後より生後に於ける児童の保育教養に関して無智無能の致す所である。加ふるにかゝる、階級の婦人は經濟的要求に迫られ、続々家庭を空にして、工場労働に従事し、児童教養の爲めに、時間と勞力とを割く余裕が極めて乏しいのである。かかる事情の下に於ては父母家庭の力の及ばない所を補足すると同時に、母たる婦人に児童教養の法を教へ、母たる道を完全するに助力を与ふ社会的機関の設置が是非必要なのである。

併し此の児童保全事業は、乳児又は五歳未満の児童の健康の保全のみに限定するべきものでなく、進んでは幼稚園時代から、小学校時代を通過し、遂に青年時代の前後兩期に亘つて、児童の身体、特にその精神の保全の爲に徹底的に尽さなければ、到底、其の目的を達成し得ないのであるから、児童保全事業は狹義の児童より、少年、青年及び、人生の未熟時代全体を通じて、社会的に之れが保全を謀らんければならぬのである。

女工即ち工業労働に従事する婦人の数は、工場法を適用される工場に於て労働する者だけでも、約八十五萬と註せられ、男工のそれを凌いで居るが、小工場家庭工業及び鉱山労働に従事する者を加算すれば少くも約其の倍数以上に達すべく、且つ今後益々増加すべきは言ふ迄もない。而して彼等の生活、健康、風俗及び労働状態は漸次改善されて來たとは言へ、之を全体から見ても、まだ甚だ不良の点が存することは、諸種の統計の示す所である。即ち罹病率、死亡率墮落者等の鮮でないことは、心身兩面に亘る女工生活の不健全であることを端的に実証するものと見て差支がない。特に此処に最も注目すべきは、かくの如き不良なる状態の下に労働して居る百六七十萬の女工の最大多数は、十八九前後の妙齡の婦人であると云ふ事と將來八時間労働制度が採用せらるゝ曉に、女工の得べき八時間の閑散時間を如何に利用して、女工の幸福を増し、實業家の利益を進め、社会一般の福祉を高めることが出来るかと云ふ事である。是の

如き事状は、之を女工及び雇傭者の側からは勿論であるが、家庭子孫、国家、産業の四方面の要求から見て、是非とも改善の良策を急速に講じなくてはならぬ。

女工生活の改善は人格を教養し健康を保全し、技術を錬磨し彼等の幸福と共に能率を増進する積極方面と、疲労を慰め、疾病を治し墮落を拒ぎ、其の不幸を減少すると共に、技能の荒廃を防ぐ消極方面とより両々相俟って実施せねばならぬ。而して之が実施には、第一には、待遇及び労働に関する施設を改善すること、第二には健康の増進、性格の向上、知能の啓発及び生活の豊富と慰安とを図ること、第三には、女工各個の精力、技能を工場各種の要求に結合し、以て其の生産効果を完全ならしめるに適切な労働方式を、それぞれ工夫精錬することの三方面の一をも欠いてはならぬ。其の中、婦人社会事業家の主として直接努力すべき方面は、第二であることは云ふ迄もないが、第一と第三とも亦其の立場から関与するを要するのである。

此の如き重大にして困難な事業を有効に成就するには、第一には事業全体の組織経営、指導統轄の任に当るものと、第二には前者の指導管理の下に、事業の部分方面を担当するものが必要である。前者は社会技師と称すべく、後者は社会技手とも云ふべきものである。而して兩者一を欠いては、斯業の成遂は期し難いが、前者は現代の社会事業の完成になくなくてはならぬ要素である。かゝる事業は学術的基礎の上に立ち、組織的機関をもって実行すべきものであるから、斯業の指導者たるべき者は、その資格としては、倫理学、心理学、生理学、衛生学、社会学、経済学等の広汎なる基礎の上に、更に応用専門の知識技能を有し、人生と人情とを理解し、現代の社会生活特に産業界の事情に通じ、聡明なる理解と深厚なる同情と精錬せる技倆とををもって、斯業に従事せねばならぬ。而して特に女工保全の事業に従事する者は一面工場に従属して其目的の貫徹に協力し、一面女工に親接して其の要求と性情とを理解し、兩者の一致点を発見して、相互の欲求を調節し、産業労働の効果を完ふし、以て公平に工場と女工と国家との三者の幸福を増進させ得るものでなくてはならぬ。産業の目的は独り資本主の利益の増進に存しないと同時に労働者の幸福のみを眼中に置くべきものでなく、さりとて資本主と労働者の利益幸福の調和にも存するものでなく、全く資本主と労働者を含めたる消費者たる社会公衆の利益幸福を増進すべきものであることを悟得し、之をもって、職務執行の方針標準とするものであらねばならぬ。

然るに翻て我日本女子大学校を顧みるに、それは一私人又は一団体の私器でなく、実に日本婦人、向上の為に存すると同時に、日本の国家社会の発展の為に存する公器であるが故に、本校は国民生活の危機に際して袖手傍観することは出来ないのである。本校は其の創設の精神に基き、真面目にして而も極めて公平にして正健若実なる態度をもって、社会の要望、国家の希求に耳を傾け、最善の努力を擧げて惜まないものである。

本校が数年前より社会事業科の講義を開始し、又本校卒業生の団体たる、桜協会が或は細民窟に託児所を設けて、細民の労働生活と家庭教育とに助力を与へ、或は物価騰貴の初めに当り、校庭又は東京府庁の庭内に於て、日用品格安バザーを催し、今日の公設市場の先驅をなし、或は共同購買会を組織し、或は婦人の為め共同住宅の建設を計劃し、或は生活改善展覧会の開設に参与する等、皆此の精

神、態度の発現でないものはない。然るに、幸か不幸か、本校が多年主張し実行せうと欲して、未だ果さなかった、社会事業学部を増設し社会改善に従事する婦人を養生すべき時機は今や正に熟し来たのである。内務省にては既に社会課を拡強して、社会局とせられ、従つて地方の府県庁に於ても亦社会課が新設せらるゝと同時に、民間に於ても労資協調会を始めとし、社会事業に注目を払ふ者続出するに至り、最近我校に向つて婦人の社会事業家を要求するもの二三に止まらない形勢となつたのである。

前既に説述せる通りに児童と女工との保全は目下国家社会が切実に要求する事業であつて、本校が之に応じて、社会事業学部なるものを増設し、児童保全と女工保全との両科から婦人の社会事業家の養成に着手し、順次他に及ぼさうとするのは、至当の挙であらう。本校は手初めとして、此の両科を設置し、斯方面に関する婦人社会事業家の養成を中心として、傍ら婦人に社会事業に対する知識と興味とを普及し、一面からは、家庭に於ける婦人の眼界と任務とを社会に向つて拡張すると共に、一面からは、社会の要求と教化とを家庭に向つて注加することに依つて、国民生活を整理改善し、各個人の福祉と国家社会の繁栄と産業能率との増進を謀りたいのである。然るに、社会事業家なるものは、他の職業者とは違ひ、殆ど実務的宗教家ともいふべきものであつて、殊に冷静沈着にして、理智判断に明かなると同時に、他方固い信仰に基く深い熱愛と、親切、忠実、綿密、熱心等の諸徳を具へたる人格者たることを要するが故に、之が教育は尋常一般の専門職業教育とは、大に其の選を異にするものでなくてはならぬ。私共は此の如き教育を十分に行ひ得る資格あるとは信ずるものではない。唯其の国家社会の急務たるを見て、補手傍観するに堪へず、自ら揣らず、新に一学部を増設し、社会奉仕の具体的覚悟を以て、為し得る限りの努力を試み、もつて本校の国家社会に対する使命の実現に尽さうとするのである。

社会事業学部の要目及び科目は別文の通りである。聞説せらるゝことを望して止まないものである。

その決断までには、生江孝之、山室軍平、留岡幸助など社会事業関係の指導者の意見をきき、また永井享、戸田貞三、綿貫哲雄の社会政策あるいは社会学者に相談をしたといわれている。そのなかでもっとも議論がされたことは、「社会学部」にするか「社会事業学部」にするかということであつた。ことに永井享は強固に「社会学部」を主張したということであるが、麻生校長の意志は強かつた。それは、要約すると実践的視点の強調を明らかにするためであつたと推察できる。(以上、綿貫哲雄よりききとり)

大正10年9月26日午後2時より、社会事業学部創立の式典が挙行された。そのときの状況はつぎのよう

社会事業学部の開設

九月二十六日午後二時より日本女子大学校に於て社会事業学部の始業式が挙行されました。秋草蕭洒に飾られた講堂の式場は多数の

来賓と大学部諸教授、並に六十餘名の新生及び在来の学生とを以て埋められました。式は奏楽に始まり君が代の合唱に次で麻生校長は社会事業学部新設の理由を述べられました。其の大意は、

「第一我が日本の国家社会は年々共に非常に社会事業を要望して来た。文部省、内務省、農商務省、通信省等の各省は勿論、政府の各要路に於て盛んに斯の方面の事業に頭を向けらるゝに至つたのみならず、民間に於ても切実に其の必要を感じて種々の社会事業が興り、従つて社会事業家の養成も重要視せらるゝやうになつて来た。

第二に従来社会事業は一つの慈善事業として取扱はれたものであったが、今日では大きな社会的の仕事となつて来た。従つて其の仕組みも複雑になつてこの事業に携はる人は専門的に教育あり熟練ある人でなければならなくなつた。

第三に社会事業は男女何に適するかといふと、勿論何方も必要であるが、殊に婦人にはその俟つ所が多いのである。即ち婦人の特徴は母性にある。婦人は人の生命を育くみ育て行く愛護者で、社会事業そのものは人生の幸福を増進する仕事であるから、この事業には最もよく婦人が適してゐる。つまり社会事業は母の仕事の延長、拡張ともいひ得るのである。

第四に我日本女子大学校ではかねてより模範会の事業として児童の預り所を設け其の他種々社会的の仕事を営んで盡力ながら社会の爲めに貢献してゐる、其点からも現在此社会此要求に対して袖手傍観する事は出来ない。是等の理由を以て吾々は一昨年の秋頃より社会学部新設の計画を立て此の方面に於ける諸家の賛同も得文部省、内務省の助力を得て遂に今回開校する運びに至つたのである。」と、更にこの学部に入學した新學生に対してその決心を固むる意味の訓辭がありました。次で左の如く文部大臣、内務大臣の祝辭代読、及び阪谷男爵、添田協同会理事の祝辭等があり後唱歌金剛石を以て閉開を告げました。

『家庭週報』大正十年十月七日 第六百三十三号

2. 創設時のカリキュラムと教授陣

創設時のカリキュラムおよび教授陣はつぎのようである。

児童及女工保全科の科目配当

第1学年の科目

1. 全体必須科目

実践倫理 2 体 操 2

2. 部分必須科目

心理学 2 松本亦太郎
国 語 2 茅野雅子、大村嘉代
英 語 3

3. 基礎科目

生理学 2 永井潜
社会学 3 綿貫哲雄
社会経済学 2 高橋誠一郎
統計学 2 2 2 回生二階堂 2 3 回生以後
森数樹

4. 自由選択科目

第2学年の科目

1. 全体必須科目

実践倫理 2 麻生正蔵
体 操 2 白井規矩郎、高桑ハナ

2. 部分必須科目

倫理学 2 友枝高彦
英 語 3

3. 基礎科目

社会衛生 2 永井 潜
社会心理学 2 桑田芳蔵
応用人類学 2 綿貫哲雄
憲法行政民法 2 中村進午

4. 自由選択科目

第3学年の科目

(甲) 児童保全科

1. 全体必須科目

実践倫理 2 麻生正蔵
体 操 2 白井規矩郎、高桑ハナ

2. 主専攻科目

社会倫理 友枝高彦
変態心理学 小態虎之助
社会問題
社会事業の発展及原理 2 生江孝之
産業の発展 2 綿貫哲雄
児童学 2 檜崎浅太郎

(乙) 女工保全科

1. 全体必須科目

実践倫理 2 麻生正蔵
体 操 2 白井規矩郎

2. 主専攻科目

社会倫理 2 友枝高彦
変体心理学 2 小態虎之助
社会問題 2
社会事業の発展及理論 2 生江孝之
産業の発展 3 綿貫哲雄
工場法 2 北岡寿逸
青年女子の研究 2 千輪 浩
女子職業問題

3. 自由選択科目

第4学年の科目

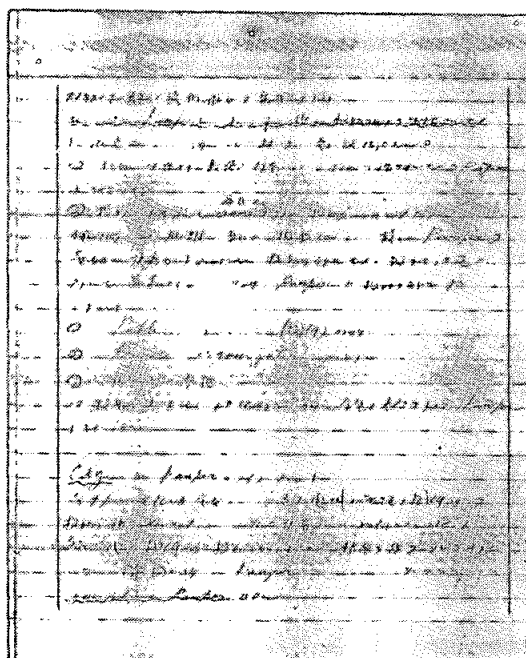
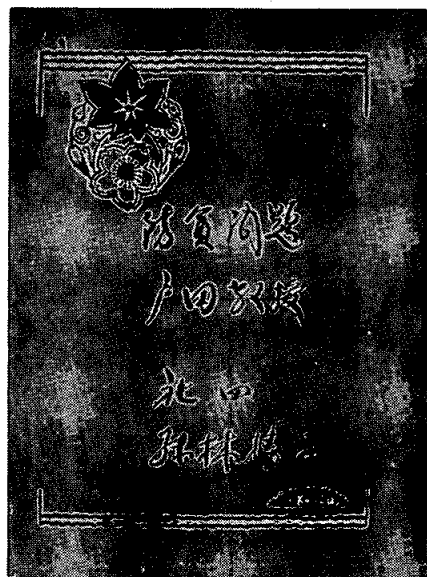
(甲) 児童保全科

1. 全体必須科目

実践倫理 2 麻生正蔵

- | | | |
|-----|---|------------|
| 体 操 | 2 | 白井規矩郎，高桑ハナ |
|-----|---|------------|
2. 主専攻科目
- | | | |
|-----------|---|-------|
| 児童保全事業概説 | 2 | 生江孝之 |
| 児科，産科及看護法 | 2 | 島 信 |
| 育児学 | 2 | 島 信 |
| 母親擁護事業 | 2 | |
| 防貧救貧事業 | 2 | 戸田貞三 |
| 同化事業 | 2 | 松田竹千代 |
| 遊戯娯楽問題 | 2 | |
| 社会事情調査法 | 2 | 吉岡まつ子 |
| 個人調査実習 | | |
| 社会事業実習 | 6 | 正田淑子 |
| 欠陥児の研究及取扱 | 2 | 小熊虎之助 |
| 不良少年少女問題 | 2 | |
| 家族問題 | 2 | 林恵海 |
| 家庭教育 | 2 | 石田新太郎 |
3. 自由選択科目
- (乙) 女工保全科
1. 全体必須科目
- | | | |
|------|---|------------|
| 実践倫理 | 2 | 麻生正蔵 |
| 体 操 | | 白井規矩郎，高桑ハナ |
2. 主専攻科目
- | | | |
|------------|---|-------|
| 女工の教育及娯楽問題 | 2 | |
| 女工使用問題 | 2 | |
| 農村問題 | 2 | 佐藤寛次 |
| 同化事業 | 2 | 松田竹千代 |
| 家族問題 | 2 | 林恵海 |
| 社会政策 | 2 | 永井享 |
| 防貧救貧事業 | 2 | 戸田貞三 |
| 社会事情の調査法 | 2 | 生江孝之 |
| 婦人問題 | 2 | 林恵海 |
| 社会事業実習 | 6 | 正田淑子 |
| 労資問題 | 2 | 永井享 |

- 美 学 村田良策
- 青年女子研究 千輪 浩
- 社会経済学 高橋誠一郎
- 文芸思潮 横山有策
- 生 理 永井 潜
- 社会衛生



また，当時の講義内容については，つぎのような講義録がのこされている。

- 統計学 二階堂
- 心理学 松本亦太郎
- 応用人類学 綿貫哲雄
- 社会心理 桑田芳蔵
- 防貧問題 戸田貞三
- 哲 学 桑木巖翼
- 法 制 中村進午

(注) 戸田貞三教授の「防貧問題」 清水勝子氏筆録

2. 当時の社会情勢で印象に残った事
3. 学生時代の宗教観はどのようなものでしたか。
4. もっとも印象に残った講義は何でしたか。
 イ. 講義名()
 ロ. 担当の先生()
5. 印象に残っている先生
6. 実習・見学について
 イ. 実習先()
 ロ. 見学先()
 ハ. 期間()
 ニ. 印象的だったこと()
 ホ. 困ったこと()
7. 卒業論文について
 イ. 論文テーマ()
 ロ. 共同者 a. 有 b. 無
 ハ. 指導教授()
 ニ. どのようなことに苦勞なさいましたか
8. 研究会活動をなさいましたか。
 イ. 学内 a. ハイ ロ. 学外 a. ハイ
 b. イイエ b. イイエ
 研究会をなさいました方はその研究内容をおかきください。
9. 当時のあなたの愛読書を2, 3あげてください。
 1. ()
 2. ()
 3. ()
10. 学生時代のお友達に関して
 イ. どういうきっかけで親しい友人を得ましたか。
 ロ. 現在も交際していらっしゃいますか。(該当項目の記号を○でかこんでください。)
 a. 時々あう b. 文通 c. 年賀状のみ
 d. クラス会の時だけ e. まったくなし
11. 学内にはいろいろな会があったと思いますが思い出すことをおかきください。(テーマ, その他思い出すこと何でもけっこうです。)
- イ.
 1. クラス会()
 2. 縦の会()
 3. 横の会()
 4. 係の会()
 5. 決心会()
 6. 結論会()
 7. 瞑想会()
 8. その他の会()
 (寮舎の会等)
 ロ. こうした会についてあなたはどの様に考えていらっしゃいましたか。
12. 実践倫理に関して
 イ. 思い出すこと(テーマ等)
 ロ. 実践倫理に対するあなたの考え
13. 運動会, 音楽会, 展覧会等に関して思い出すこと。
 イ. 運動会()
 ロ. 音楽会()
 ハ. 展覧会()
 ニ. その他の会()
14. その他行事で思い出すことがあったら書いてください。
 イ. 学内生活()
 ロ. 寮舎生活()
- C. 卒業後について
 (該当欄に記入してください。)
 1. 卒業後すぐ就職なさった方は次にお答えください。
 イ. 職名

ロ. 紹介者(該当項目の記号を○でかこんでください。)

- a 先生 b 研究室 c 指導者(リーダー) d 知人 e 友人
f その他()

ハ. その職業を選んだ動機

ニ. 職業の条件について

- a 給料() b 勤務時間()
c 有給休暇 1. 有 2. 無

ホ. 社会事業学部で学んだことが就職して役にたちましたか。

2. 職歴について

イ. 今までに就職なさったことがありますか。

- a. 有 b. 無

ロ. ある方は次に御記入ください。

かきこむ欄がたりない方はごめんでも付紙なさってください。

1. 最初の職業()才~()才職名()
2. ()才~()才職名()
3. ()才~()才職名()

4. 現在の職業()才~()才職名()

3. 職業としてではなくボランティア活動をなにかなさいましたか。

イ. a. 有 b. 無

ロ. ある方はどんなことをなさいましたか。

かきこむ欄がたりない方はごめんでも付紙なさってください。

1. ()才~()才活動の内容()
機 関()
2. ()才~()才活動の内容()
機 関()

3. 現在()才~()活動の内容()
機 関()

4. 卒業後、進学なさいましたか。

(各種専門学校についても記入してください。)

イ. a. した b. しない

ロ. 進学なさった方は次に御記入ください。

1. ()才~()才 学校名()
専攻() 留学の場合、国名()

2. ()才~()才 学校名()

専攻() 留学の場合、国名()

5. 何か資格をおとりにりましたか。

(たとえば、お茶、お花、おどりの講師としての資格等)

イ. とった ロ. とらない

資格名

6. 各種表彰(地域・団体等によるものも含めて)、叙勲等について(かきこむ欄のたりない方は、ごめんでも付紙なさってください。)

1. ()年()月()日 種類()
理由()
2. ()年()月()日 種類()
理由()

7. 著書、論文、文集等おありの方は御記入ください。

イ. 書 名

ロ. 発表年時

8. 結婚について

イ. 結婚の有無

- a. 有 b. 無

1. 結婚年令()才

2. 子供 イ. 有 ロ. 無
()人

3. 現在、配偶者の イ. 有 ロ. 無

9. あなたは現在どなたと住んでいらっしゃいますか。

10. 御家族は何人ですか。

11. 自分を生かす為に趣味として或はその他の理由で何かお習いになるとか勉強していらっしゃいますか。ありましたら、それについて御記入ください。

12. 現在、何かの団体に属していらっしゃいますか。
(たとえば、大学婦人協会とかいったもの)

13. 現在より考えて社会事業学部に入學したことは良かったと思いますか。

イ. 良かった ロ. 悪かった ハ. その他()

共にその理由

14. 最近の社会的な問題に関してどのような事から最も関心をおもちですか。

15. 現在、社会福祉を学ぶ学生にどのような事を期待していらっしゃいますか。

16. 社会事業学部で学んだことで今の生活に生きていくと思うことはどんなことですか。

17. 在学中の写真とかノート、書簡、書類等及び卒業後のものであっても社会事業学部に関係のある資料をおもちでしたら次に御記入ください。

イ. 有 ロ. 無

資料の種類

その資料を拝借できるとすれば、どのような連絡方法でできますでしょうか。

- たとえば
1. 研究室へ持参する
 2. 送る
 3. とりきてもらいたい
 4. その他()

拝借できますれば、大切に使用後お返しいたします。

御協力ありがとうございました。

記入者名 氏
回生 名

回収状況

	発送数	返信数	回答不能	宛先不明 で返送
22 回生	22	9		1
23 *	27	15		
24 *	28	11		2
25 *	28	4	1	
26 *	23	8		1
27 *	18	7		
28 *	10	5		
29 *	5	4		
30 *	3	1		
31 *	6	1		
32 *	5	1		
33 *	1	0		
	176 通	66 通	1	4

A. 社会事業学部入学時について

1. 出身地

表1に見るように殆ど全県にわたっているが、内容的には、両親の職業から見ると市部と郡部との差は余り関係は無いように思われる。

表1 出身地

	市	郡	計
北海道		1	1
青森		1	1
岩手		1	1
宮城		1	1
山形	1		1
福島	1	1	2
茨城	1		1
群馬	3		3
千葉		1	1
東京	9	1	10
神奈川	2		2
新潟	2	1	3
富山	2		2
福井	1		1
山梨	1		1
長野		1	1
岐阜	1	1	2
静岡		2	2

	市	郡	計
愛知	1		1
京都	2		2
大阪	2		2
兵庫	1		1
和歌山	1		1
岡山	1	2	3
広島	1	1	2
山口	1		1
香川	1	1	2
福岡	3	1	4
佐賀		3	3
熊本	3		3
大分	2		2
宮崎	1		1
台湾	1		1
答なし			1
合計	40	19	66

2. 入学当時の両親の有無と職業

表2は、両親の有無

表3は、両親の職業。自営業が圧倒的に多い、公務員もほとんどが管理職にある。

表2 両親の有無

	有	無	無回答	計
父	53	13	0	66
母	55	10	1	66

表3 両親の職業

職業名	父	母	備考
自営業	40	7	商業(6,1)建設業3,醸造業3,弁護士,旅館,山林業,生糸問屋,医師,評論家,農場経営,不動産業
公務員	21	2	図書館長,外交官,町長,軍人,知事,小学校長,女学校長,など
会社員	12	0	
地主	5	2	
農業	5	3	
社会事業施設経営	4	3	
会社重役	2	0	
代議士	2	0	
無職	5	43	
その他	2	0	
無回答	2	40	

3. 入学時の年齢

表4に見るように16才(高等女学校卒業者)から25才までのかなり年齢に開きがみられる。

表4 入学時の年齢

年齢	16	17	18	19	20	21	22	23	25	計
人員	7	13	17	9	7	6	3	1	3	66

4. 入学前の状態

表5により73%は高等女学校の延長として入学したものであるが、中には他の科より転科したもの、他校より移ったものなど含まれる。

表5 入学前は何をしていたか

仕事をしていた	15%	タイピスト 小学校教諭 明治生命事務員 内務省勤務
学生	73	
家事手伝い	7.5	
その他	4.5	お稽古ごと
計	100%	

5. 誰が社会事業学部を選んだか

表6により本人が望んだ、というのが65%の多きにのぼる。

表6 社会事業学部は誰を選んだか

自分で決めた			65%
すすめた人	父	母	その他, 先生, 兄・姉, 祖父, 叔父
	12%	3%	21%
無回答	3%		

表7 社会事業学部を選んだ理由

新しい学問へのあこがれ	15
社会事業への情熱から。保育所をはじめたいと思って	13
社会奉仕的な仕事がしたいため	12
独立した生活を希む	4
教授陣の素晴らしさ	4
父のすすめ, 兄が社会学を専攻していた	3
型通りでない勉強が出来るように思った	2
先輩のすすめ, 女学校の担任にすすめられて	2
友人が入っていた	2
両親が社会福祉施設で働いていた(経営)	2
深い理由なし	2
英文科に入りたかったが力足りず	2
社会, 婦人問題に関心を持ったから	1
社会の一員として社会を知りたかったから	1
家政科は興味なく, 社会科を選ぶ	1
女子商業学校出身のため, 師範, 家政科に入れなかった	1
無記入	5

表8 社会事業学部を何によって知ったか

規則書	29%
友人	17
新聞	14
先生(女子大卒)	9
兄・姉	4
他学部に在学中	4
通学していた校内の掲示で	3
母(卒業生)	3
父	3
叔父	3
家庭週報	1.5
常識として知っていた	1.5
無回答	8
計	100%

表9 入学に対して家族の意見

	賛成	反対	無回答	計
父	56%	25	19	100%
母	61	28	11	100%
その他(兄・姉)	33	10	57	100%

理由1.

父 賛成の理由	
これからの女は何か学ぶべきである	7
教授陣が立派	1
これからは社会科が必要	2
校風が良い	1
本人が希望するから	8
独立出来る心構えが必要である	1

女の仕事の中で大切な保育が女学校の課程では 不十分	1
父 反対の理由	
女性らしくない	5
早く結婚した方がよい	4
家政科ならよい	3
最高の学問をする必要はない	1
女に学問はいらぬ	1
社会主義に傾く恐れ	2
新しい学部で不安	1
母が早く亡ったので、早く結婚させたかった	1
理由2	
母 賛成の理由	
母の母校で学ばせたかった	
いろんな意味でのよき良識者になればよい	
母 反対の理由	
早く結婚してほしい	
父が反対するから	
家政学部なら賛成	
理由3	
その他(兄, 姉, 女学校長, 叔父, 祖父など)	
賛成の理由	
社会というものに大きく目を開くべきだ	
教授陣が立派	
校風が良い	
反対の理由	
女に深い勉強はいらぬ	
早く結婚した方がよい	
B. 在学時について	
1.イ. 学校内の生活において良かったこと	
自治生活・寮・共同生活。	14
諸先生の講義を聞くこと。	7
少人数の級で教授・友達とうちとけられた。	
緊密が深い。	6
授業が面白かった。	5
自由で良かった。	4
反省会・軽井沢の瞑想会。	2
多くの友人を持ち得たこと。	2
生涯の心の友を得たこと。	2
一人の人間として教育される喜び。	2
精神教育に主力が注がれていて関心を深めた。	2
最高学府としての諸要件が満たされていた。学	
生生活の雰囲気を楽しむ。	2
みんな良い思い出	2
社会に対する眼が開かれたこと。	1
正しい人世への道を教えて頂けたこと。	1

新しい事が多く夢中で過した。	1
寮の先生の計らいで、上野図書館で勉強できた こと。	1
貧困家族や社会の不幸な人々の存在を知ったこ と。	1
宗教のワクにはめられなかったこと。	1
別になし。	3
無記入。	11
ロ. 学校内の生活において後悔したこと	
もっと勉強しておけばよかった。	11
一度でも寮生活をしてみたかった。	2
もっと読書すればよかった。	1
4年間勉強したのに、社会的に通用する「資格」 が何も与えられなかったこと。	1
思いきり自分を発揮することが出来なかったこ と。	1
努力のたりなかったこと。	1
家政学部、医学、英文科、国文科、語学に入れ ばよかった。	5
別になし。	22
無記入	22
ハ. 残念だったこと	
もっと学問を真剣に考え勉強すべきだった。10 集会などが多くて落着いて勉強出来なかったこ と	2
科学的教育理念に乏しい教育方針	2
何も資格をとらなかったこと。	1
創設されたばかりで何をするにも小人数で背景 がなかったこと。	1
講師の休講が多かった。	1
やや年長で入学したこと(25才)	1
級メートの殆どが左翼運動活潑な時であった為 退学、停学され8人のみ残った。	1
当学部が良く理解されなかったこと。	1
リーダーに相談事を持って行かなかった。	1
個人的理由で展覧会に参加出来なかったこと。	1
年月は、それらのものを消してくれた。	1
無記入	43
ニ. いやだったこと	
形式的な会の生活	6
個人の会、自分の反省を告白する会	3
他学部の先生より白眼視され看視されていた。	3

いろいろの思想の関係で、自分を理解してもらえなかった。	1	たようだ。社会と名の付くものは、特別の眼で見られるようになった。	14
14～5人の教室で、正田先生に4年間1度も指名されず残念であるし、気持ち良いものでなかった。	1	資本主義・社会主義の時代で級も2つに分れた	5
会が多かった。	1	朴烈事件・朝鮮独立運動の発生	5
クラス内はいい空気で無かった。	1	普通選挙が行なわれた	3
一人になる時間が少なかった。	2	学生は夕方から外出厳禁、男学生と文通も寮監の許しの範囲に限る	1
寮の門限が早かった。	1	3.15, 4.16の学生等大量検挙	1
ピアノのレッスンに良い講師がなかった。	1	革命思想の表面化、級の中からも退学事件ある	6
父なく、母が他家に嫁いだ為帰る家が無かったこと。	1	赤の旋風で多くの友を失った	2
無記入	45	人間無視の時代だった	1
ホ. その他		総理浜口氏の東京駅の難	1
良い思い出ばかり、学生時代は黄金時代	2	満州事変	1
リーダー、寮監の形式的教育方針	1	米騒動、伊藤白蓮の恋愛	1
良き友人をもっと選び交友すべきであった	1	金解禁、大正天皇崩御、現天皇即位式	1
自分で研究する程力が無かった	1	就職難	1
もっと学課に、つき進んだものが欲しかった	1	アメリカの排日運動	1
図書室が貧弱だった	1	婦人の職場進出善悪論	1
図書借出しに不便を感じた	1	職業婦人と家庭生活の問題	1
他学部の人や先生方から異端視されたこと	1	女性の加盟団体進出が目立ってきた	1
期待したよりは、はるかに保守的で、良家の子女の教育であった。上流又は中流階級にむくような教育方針に少なからず失望しましたが、他学部よりは少しは良かったように思った	1	焼芋買いに行ったことを思い出す	1
無記入	56	只今から回想しますと、大変おだやかな世の中だったと思う	1
2. 当時の社会状況で印象に残ったこと		無記入	5
3年生の時(22回生が)関東大震災があった。社会問題が花咲き、社会事業家の要請が一般に認識されはじめた。この時大杉夫妻が甘粕大尉に殺されたこと、東京都のトラックで玉姫方面で乳児調査。深川・本所方面の社会調査や給食の炊出しの手伝いに参加したこと。そのあと、木綿の着物を着ることになった。	27	3. 学生時代の宗教観	
震災の有様と、当時の米・伊、その他の国々の援助の好意	1	キリスト教	15
22回生が入学した大正10年は、足尾銅山、川崎三菱造船所のストライキ、原敬首相の暗殺があり、大正12年の大震災、14年の女工哀史発刊など、社会に社会にと人々の心が向けられて来た。	1	キリスト教の家庭に育ったので幼時よりキリスト教的愛、即ち神の愛について考え信仰をもっていた。	3
貧富の相違が大きく、はなはだしかったこと	1	仏教	5
入学2, 3年頃から社会主義の弾圧が強くなっ		無宗教思想	9
		帰一宗教	3
		実倫の講義によって宗教観は出来た	3
		神の存在をおぼろげながら確信出来た	3
		漠然と人間以上の力の存在を意識していた程度	2
		真善美を求める道が宗教観	1
		ミス・フィリップスの厳格な寮での宗教教育	1
		非常に懐疑的	1
		木村泰賢先生の宗教哲学、桑木氏の哲学概論に興味	1
		観念論的理想主義	1

特別の宗教はないが、光明を追うて、死の觀念、
 トーロの人生觀に教えられる。 1
 將來心のよりどころとして信仰ということを考
 えることもあるだろうと思った事はあった 1
 自分の納得出来る自分流の宗教でも良と思った
 1
 余り考えなかった 1
 無記入 14

4. もっとも印象に残った講義

(講義名)		(担当の先生)	
社会学	32	綿貫哲雄	32
社会経済学	28	高橋誠一郎	29
社会政策	9	小熊虎之助	7
変態心理学	7	正田淑子	3
社会事業実際	3	永井享	5
社会事業	3	戸田貞三	7
心理学	2	生江孝之	3
ヒューマンネチャー	1	永井潜	1
生理学	2	富士川 游	3
哲学思想史	1	松本亦太郎	3
社会演習	1	桑木 敬翼	1
哲学概論	1	麻生 正蔵	1
美術史	1	友枝 高彦	1
産業革命史	1	中村新吾	1
社会心理学	1	桑田芳蔵	1
社会衛生	1	牧野(途中で辞められた)	1
精神衛生	1	中川	1
実践倫理	1	木村泰賢	1
倫理学	1	無記入	5
社会思想史	1		
文芸思想史(国文科と)	1		
原始仏教講座	1		
法制	1		
法律	1		
お料理	1		
無記入	5		

5. 印象に残っている先生

高橋誠一郎	43	永井 享	13
綿貫哲雄	39	正田 淑子	10
生江孝之	15	永井 潜	4
小熊虎之助	15	中村進午	4
戸田貞三	14	松本亦太郎	4

富士川 游	4	茅野雅子
友枝 高彦	2	姉崎 正治
高良トミ	2	中藤(英文科)
麻生学長	2	大村嘉代子
千輪 浩	2	関貞子(寮監)
林恵海	2	井上(栄養学)
桑田 芳蔵	1	松田竹千代
森 敬樹	1	中川(料理)
橋本 進吉	1	大槻 たか

鳥井
 藤原千代
 横山(国文)
 須田

6.イ. 実習について

実習先	期 間
下谷金杉精神病院	夏期休暇中 1 ヶ月
日暮里 愛隣園	週 1 回 1 年間
兵庫県 土山学園	2 年の夏休み 1 ヶ月
夏期林間学校(仏教団体)	夏休中
キリスト教女子青年会	6 ヶ月位
有職婦人部	3 年, 4 年 2 ヶ年
桜楓会託児所	毎週木曜の午後
東大セツツルメント	ときどき
	(4 年のとき)
女子青年館	1 年
大塚公民館	
女子神田職業安定所	
深川 隣保会館	
片倉製糸工場	
丸山先生の施設	1 年間
幼稚園	



同仁ハウスにあった子供のグループに
実習に行っていました。(遊びの指導, 週1回)
昭和4年6月10日 写真提供者 川瀬晃子氏



24回生の実習
日暮里愛隣園
愛隣園の子供たちと, 昭和2年
写真提供者 大槻たか氏

6.ロ. 見学について(註)

丸山先生の保育園	東大セツル
小菅刑務所	愛隣園 日暮里
片倉製糸工場	同潤会
栃木女子刑務所	鐘紡工場
根岸・精神病院	二葉保育園
日暮里貧民街	武蔵野少年院
深川助産施設	新聞社
保育所	三井病院
八王子少年院	家庭学校
松沢精神病院	トンネル長屋
千葉医大精神科	助産施設

深川	セツルメント	啓成社
	授産場	賛育会産院
質屋		済生会病院
南千住 隣保館		尾久隣保館
桜楓会日暮里託児所		頼病院
浴風園		警視庁
明石町市民館		



社会見学の根岸精神病院
写真提供者 井上千鶴子氏

見学と実習ははっきり決っていたわけでないらしく
く回生によっても違う。

24回生から見学がはじまり, 27回生の場合は,
3学年目1年間は実習, 4学年次は見学で週1回で
あった。

23回生の場合, 見学はあったが, 実習はなかつ
た。

実習先, 見学先の印象について

- 製糸工場の美しさ, 食事の立派さ, 自分の生活の方
が貧しいので, 女工哀史に疑問を持った。
- 工場を(製糸)充分に見学出来なかったこと
- 貧民街の実態を身を持って知り得た
- 吉原に遊女を訪ねたこと
- 日暮里の貧民街に行った時1日中鉢植を見て暮す老
人の姿
- 丸山千代先生の献身的な働きに感銘した
- 当時の婦人(妻)の立場, 苦難にショックを受けた
- 設備が悪かった
- 言葉がわからない
- 製糸工場の労働時間の長かったこと
- 処刑されたばかりの金子文子, その他の女囚のこと

- 東大セツトルメント見学の時、そこで働く学生生活に無理の多い生活であった様
- クリスマスの楽しさ、汚れた手で新しい洋服にさわられ、囲まれたこと
- 関東大震災でエプロン姿で学部全部が看護、物資の配給などに働いたこと

見学、実習で印象的だったこと

- 工場に働く若い女性に階級意識を期待し、また意識のめざめを努力したいと考えたところ「何が知りたいか」に対し、「お作法、手芸、西洋料理の食べ方」など。ガッカリすると同時に、経済的に恵まれない人達は貧しさからのがれたいと願っていることを知る。
- スラムの居住者は救いようがないと思った。救貧でなく防貧である。ケースワークの必要を感じた。
- 実習には服装にも神経を使った、クラスで話し合っ
てユニフォームを作ったこと。社会の底辺のすさまじさ、悲惨さに胸を打たれた。
- 社会悪は、それがたとえ1名であっても当時者にと
っては100名であるということ。
- YWCAは早くから職業婦人の余暇を利用したクラ
ブ活動、指導者養成（職場での）全国有職婦人聯盟
を組織して婦人の地位向上に努めていた。
- 精神病院で、実際の患者に接し、説明をうけたり催
眠術や二重人格の異常者の実験を見たこと。
- 根岸病院で見た誇大妄想症の患者、アルコール中毒
の恐しさ。芦原將軍。
- 託児所などで働いていらっしゃる先輩を見て、自分
はこうも献身的になれるだろうかと思った。
- 松沢病院での狂暴性患者を袋に入れてぬるい湯槽に
2日も3日も漬けてあるのを見たとき。
- 未知の広い世界を知ったこと。
- 刑務所の独房を見たとき非常に反抗的な眼でみられ
た。

困ったこと

- 自分の住むところと違いすぎて相手になじめなかつ
た
- 思想に対する疑問、児童に関する論文をまとめねば
ならなかった
- 相手の言葉の意味がよく把握せずに困ったこと
- 実力のなかったこと
- 児童の指導のむづかしいこと

- 取り組み様のない社会の暗さ
- 工場を充分に見学出来なかったこと
- 英語の実力無く、YWCAは外国人が多く困った。
クリスチャンの行事がわからず、洗礼もすすめられ
た。
- お作法の本を読んだり、刺繍を習ったり一夜漬けの
勉強をした。
- 実習で帰ると家の者に身体にしらみでもついて来る
様に思われハタキで叩かれた
- 社会学科に興味を持てなかったので完全に怠けてい
た
- 違った社会ばかりで面白くなかった
- 別になし

註 創設当時の学生の機関誌「光」第1巻、大正15年6月10
日発行に次のような見学調査記録が収録されている。「家庭週
報」にも2,3の見学記録が収録されているが、紙面の限定があ
るため、最後の「掲載したもの以外の資料リスト」の中に記録
しておいた。

日暮里貧民窟見学

社会学部四年生

日暮里貧民窟の見学の準備として五月六日の土曜日の研究会があ
てられた。そして大体、調査事項を次の如く定めグループに分れて
調査する事になった。

貧民窟調査事項

家庭の状態

1. 人数及年令 父母兄弟姉妹
2. 職業 家族員各自の職業
3. 家族員の教育程度
4. 娯楽（子供、大人）
5. 雨天時の職業、
6. 宗教
7. 児童の理想 将来の仕事
8. 家族の円満如何
9. 父母の出生地
10. 家族員に対する称号
11. 病気の時に如何になすか
12. 埋葬の状態
13. 読書類

衣服

1. どんなものを着てゐるか
2. 着物の枚数
3. 冬着 足袋 下着等 夏着
4. 外出着如何
5. ふとんの枚数
6. 履物
7. 蚊帳があるか
8. 雨の時に如何
9. 洗濯は一週間に何度するか

食 物

1. 食事は家族揃って食するか
2. 食事の回数
3. 買物は如何
4. 父母の嗜好
5. 母乳不十分の場合
6. 食物の質及び量（御飯、副食物）
7. 駄菓子の売物
8. 自己の好むもの

住 居

A 境界の状態

1. 衛生状態
下水 日あたり 道路 共同風呂 物干し 医療機関 伝染病の有無 害虫の有無
理髪屋の有様 家屋の状態 構造

2. 店屋

種類 店の状態 質屋の数 店屋の売高及利益 娯楽機関（数、種類）

3. 住 び

宿泊所の有無 職業紹介所 托児所 小学校の状態（有様）

B 家屋内の状態

人数と畳数 世帯数 家賃 天井 電燈 押入れの状態 家財状態の有無

C 一家の衛生状態

日あたり 井戸 便所 台所入浴 下水 睡眠状態

この調査事項を謄写版刷りになし、各々之を標準として調査、観察する事になった。

次の感想は衣服グループ、住居グループの報告である。

私達の社会理想は共存共栄、相互扶助の社会である。凡ての人が人間的存在を楽しむことの出来る社会である。此の理想へ向って進まふとする私達にとって社会の下層に呻吟して居る人々のあることは黙過し得ないことである。而も貧民の救済は非常に困難なことである。何故なら只単なる物質では救い得ないからである。寧ろ物質を与へるよりも彼等によき境遇を与へると共に情性に引づられて居る彼等の精神に生き生きとした活動力を吹き込まねばならないからである。物質よりも精神であるからである。而も人間の精神は自己の内からの要求が起らない限り機械の如く容易に他の力によって動かし得ないものである。それで真に貧民を救済するには彼等の友達となつて、人格的に接触し、除々に教化し能動的力を養はねばならないのである。其処に貧民窟に於けるセツゾルメント事業の有意義な存在があるのである。

貧民窟調査事項

衣 服

1. どんなものを着て居るか
多くは色のあせた、よれよれのニコニコ紺で、中にはこの藍いの綿入れの着物や羽織を着て居るものが見うけられた。小学生の袴は赤茶けた木綿袴で下に着物を四五寸ものぞかせて平気である。
2. 着物の枚数

夏冬一枚づつ位で殆んど着のみ着のまゝ。

3. 足袋

足袋は殆んど穿かない。穿けば破れてきれきれになるまで洗濯することなしにはきつづける。

4. 外出着如何

殆んど無し。

5. ふとんの枚数

上下一枚づつ位でそれに全家族が一緒に休む。少しも日光にあてないので湿気がある。

6. 腹物

大抵ある。

7. 蚊帳

無きもの多し。

8. 雨の時如何

傘は大抵ある。それでも雨の時は学校の出席率わるし。

9. 洗濯如何

夏物は時々するが冬物は一度もしない。

□ □ □ □ □

日暮里駅から、十数丁、改修中の、広い道路を踏切りまでは行かず、一丁許り手前で右へ折れる。すぐに桜楓会の託児所と教へられて、片側には川のように下水が流れてゐる、不潔な併し町幅は相当に広い道を迎る。

「この辺一帯が貧民窟なのです。」と教へられても、自分には信ぜられない位に、辺りの家並もそろつてゐる。

とにかく、桜楓会の託児所へ、一まづ落つく事になった。丸山先生と、高梨様（社会科一回卒業）が親切に迎えて下さる。

上は八九歳から、下は三歳位の男女合せて約五六十名の園児が、嬉々として遊び廻つてゐる。

「先生いらっしやいませ」と鼻つたらし子供や、赤ちゃけた髪の毛をした子供が、この珍らしい客をもてなしてくれる。私達は子供達から始終先生の敬称をもって、よばれてしまった。子供達の世界は、実に天真爛漫、そのものである。はにかみも、ひがみも知らない子供の国こゝばかりは階級を超越した楽土であった。「比較」を知らない子供には煩悶もなければ、反抗もない。

「雨がふれば、托児の数もへります。親が仕事に出られないので、托しに來ないわけで。」

とは高梨様の御話であった。

時間を十分にもたない私達は、托児所を早々に一わたりみせて戴くとすぐに地区の方へ案内して戴いた。

地区 それがこの辺の貧民窟を称するの名になつてゐる。前来た道路から、一步はいった時、私は先程の第一印象をすっかり裏切られてしまった。何故なら私のさつき、迎つて来た道は実は本当の地区ではなかつたのである。皮相の一かはだけが、外観を保つ上から相当に整へられてゐるにすぎない。で表通りを折れて路次の様な、行きどまりの小路に入りこんだ時初めて私は所謂地区なるものに足をふみ入れたのであった。住居調査のグループにはいった私は、実際にあつて調査する事の実に困難である事を知つた。何故なら托児所で階級を超越した、楽土の平和を感受した私は、こゝでは極度な階級意識の反抗的な圧迫を感じてしまつたから。

「なんの調査なんだ。馬鹿馬鹿しい、人間てなものは、立派な家

にすんでゐるか、ゐないかだけの違ひで、その外の事はみんなおんなじなんだ。」

「汚ないところへ来るなら、汚ない着物をきてくればいゝぢゃないか。」

そんな捨て台詞を、あびせかけられた時、私は涙なしに居られなかった。「私はあなたの方の味方なのよ。」そう心の中で辯解して勇氣を鼓して奥の突き当りまでいって見たものゝ、どうして家賃が如何とか、どんなものを食してゐるかといった。内容的に入りこんだ質問を發する事が出来よう。

このとき私は生れた許りの子供をおんぶしながら、ボロ切れをととのへてゐる（屑屋からのボロ切れを整理するのが一つの賃仕事になってゐる。）一人の婦人を見つけた。

子供の頭にかけた頭巾が深く目にまで垂れ下つてゐる。「なほしてあげませう。」そんな小さな行為がはからずも、この婦人の胸を開かせてくれた。それにその家は小児二人までも桜楓会の托児所の方へ托児してゐる關係から、私達には好意をもって居られるのであった。そして可成りつきこんで種々の事を尋ねる事が出来た。

それから次に私の調査に材料を与へて下さったのは、日暮里唯一のセツルメント愛隣団の方々であつた。前述した様な、感情的の問題で精に互り、敵に入つての調査の事実不可能であつた。

けれども、とにかく前記の材料に自分の親しく目撃したところを加へて、次にまとめてみる事にした。

住居グループ報告一端

A 界隈の狀態

1. 衛生狀態

下水 日あたり 道路

表通りの下水に溝板がないのだから、地区は推して量る事が出来る。道路の狭さは一概にいへぬが、ひどいところになると、家並と家並が、道路を狭んで接触せん許りになってゐるので、雨天の時には雨水の流れ出るところはなし、床下の浸水は毎度の事である。殊に大抵のところは、便所と井戸が隣合つてゐるので雨水と共に両者は一緒になってその臭気と不潔さは堪えられない、子供達はそれ等の中を平気で裸足のまゝ泥水の中をあるくのである。物干し

初めに入りこんだ地区の道路の上に、萬国旗の様に、おむつがぶら下げてある。おむつの下を、みんなが平気で通るのだ。

日暮里大火の焼跡が、共同干渉になってゐる、焼け残りのトタン板や木片の間に汚らしいふとんが油じんで光つてゐる。

医療機關

この地区内には、医療的施設としては、愛隣団の診療所と済生会の診療所があるのみである。愛隣団の診療所では、一日平均約六十人の診療をしてゐる。医員二人、看護婦一人、産婆一人がつかまつて従事してゐる。実費だけを徴収してゐる。無料施設といふ事は依頼心を起さしめて結果としては却つてよくないそうである。

2. 店屋

種類、店の狀態

表通りの店屋に於て目についたものは大体、駄菓子屋の多い事、古道具屋のある事位で、大して特殊なものもない。ただこゝでな

ければない店屋は残飯屋である。大抵の貧民はみな残飯を食してゐるので、残飯屋の利益は大したものゝ、残飯屋はなかなかのブル階級なのである。病院や、劇場の残飯を集めて、一度むし直し、販売するのだそうで、十銭で約五人の家族のものが一日分を食して僅に餘るとの事である、その中には菜もふくまれてゐるのであるから、貧民がよるこんで残飯をもとめるのも無理からぬ事である。

質屋

さぞ、質屋が多いだろうとの私の豫想は外れてしまった。かうしたどん底生活の細民には質屋の要はない。質屋の札をもつてゐるものは、それだけ質草のある事を示すものであつて、反つてそれが誇りとなるのだそうである。愛隣小学校の子供の例であるが、質屋へ行く事が友達への自慢とさへなるといふ事を聞いた。

娯楽機關

彼等の唯一の娯楽機關は活動写真である。従つて、かゝる地区には、不相応に立派な、活動写真の常設館がある。而して小学校の生徒の話題は常に活動写真であり、遊戯は常にその模倣である。

なほ店屋として面白く感じたのは、「牛めし 大十銭、小五銭、白めし 大八銭、小四銭」の看板が一膳飯屋に見えた事である。

3. 住ひ

托児所

托児所は、桜楓会の手で営まれてゐるもの、一つがあるのみである。数十名の子供が嬉々として戯れてゐる。庭にはブランコあり、砂遊びの池あり、こゝのみは普通の幼稚園を小規模にしたものであつて、この施設あつてこそ、それ等子供達は無智な母親の前に足手纏ひにされながら、危険な且つ陋穢な路次で遊ぶ事から救はれる。

社会救済の努力が一番、価値となつてあらはれるところは何といつても、第二の芽生えたる子供を対象としたところにある。この意味に於て、かうした托児所の増設される事を切に望む次第である。

小学校

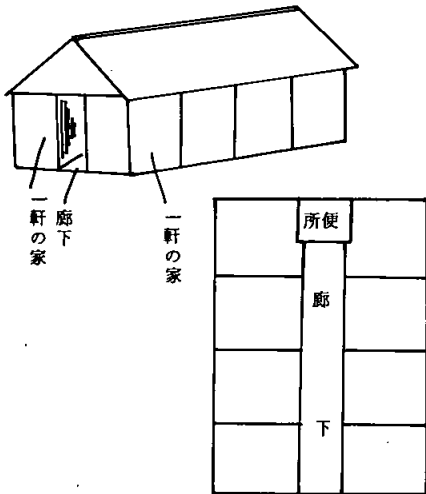
愛隣団の経営にかゝる、愛隣小学校を見学した。もともとこれは無籍者の児童就学の目的でたてられたものであつたが今では全く広く貧民児童を收容してゐる。特に普通の小学校と異なるところは、校内に浴室の設備のある事と、活字出版所をおき、又、ミシン台を据えて、授業の時間の閑暇を利用して、技術的訓練を施し、同時に多少の賃銀を得せしむる設備となつてゐる事である。

生徒の性質は概して純である。ある種の方面にはスポイルされてゐるが一体に於て極めて自然に伸びてゐる。今まで日曜学校の生徒を扱つた経験がありますが、こゝへ来てずっとこちらの方の子供達が自然のまゝに伸びて居つて、何事にも絶対に信じきれて衷心より尊敬しきれるといへた純なところをもつて居ります。」と愛隣団の方は話された。雨天の時は出席率がぐつとへる、これは雨具がないからである。

B 家屋内の狀態

人数と疊数

所謂の棟割長屋である。棟割長屋とは図に示す様な建て方になつてゐて、中央の廊下（暗黒である）を通じて、共同便所に行ける様になっている。



大抵の家は、六畳一間位でそれでも家族の少ないところを間貸しをする。一間を、どうして間貸しにするかといへば、何かできってその中の二畳分とか一畳分とかを貸すのである。愛隣小学校に来てゐるあ

る子供の家は、八人の家族が三畳一間にすんでゐる。

家賃

家賃は、畳一畳について二三円で相当に家賃は嵩むのだそうである。それほどの住宅費を出しながら何の為にかゝる部落にすんでゐるかといふと、彼等には同類意識が極めて強い。彼等は我々が考へる様に単なる経済的条件のために、かゝる部落に住んでゐるのではない。

ある相当の稼ぎをする大工が地区を引きあげて上野の方へ出た。彼等は経済的には下級官吏以上の賃銀を得てゐる。而も彼は数月ならずして、帰って来て又、この地区にすんでゐる、ある老人の甥は相当社会的に地位をもつてゐる人なので幾度も幾度も彼の老人を、引きとらうとするが、どうしても彼は、この地区から離れる事をいやがる。そんな御話もきいた。

押入の状態、家財状態の有無についても、詳しい観察がしたが、かゝる立ちいった事はきく事が出来なかった。住居グループの報告は大体これ位にして、その他にきいた事見た事感じた事を無秩序に書いてみる。

地区は又地区の中で三つの階級に分れてゐる。

即ち第一階級といふのは定職のある安定労働者であり、第二階級と称するのは職があつたりなかったり不安定労働者でそれでもまあ毎日の食物だけは得られる程度である。第三階級は日によって食へたり食へなかったりする程度の人達である。

この三階級を人情の上からみると、第一階級のものは冷淡であり、利己的であるのに反し、第三階級のものは極めて人情が濃やかである。自分が食べなくとも隣人に顔つといった人情の美しさは、こゝに於て見られる。第二階級のものはその中間にある。而して最下級の人達は性格の上からいっても一番純真であつて、愛隣団其他の救済機関に対しても衷心よりの感謝をもつてゐるので、極めて接触し易い。然るに第一第二階級のものは根本的に地区以外の人々に反感をもつてゐるので取扱ひに苦心が要る。

愛隣団の方々の経験話の中に歳暮の施与餅や販売券などの分配に対する苦心談があつた。こんな場合彼等は二重とり三重とりの

奸策を弄し又は販売券を幾枚も幾枚もとりにこんでそれをプレミアム附で第三者へ売ったりする。

次に貧民への給与は金子では無駄な事である。欠乏してゐる物品米とか、薪とか乳とかそれぞれを与へるのが最もいい方法である。浪費と産費が彼等の習性であるから、給与された金子は直ちに酒其他の代にかへられてしまふから。浪費産費の習慣は子供にも目立ってあらはれる。ある生徒は朝食前に十銭位の買食ひは、あたり前の事にしてゐさうである。(もちろんそんな場合は特殊ではあるが)

要するに貧民は単なる経済的条件のみで、かゝるどん底生活に沈淪してゐるのではない。

「乞食三日すれば忘れられぬ。」かうした無気力な惰性的なものが彼等の中に根づよくはびこつてゐるのである。

ある一部の論者がいふ様に単なる経済的の救助のみで、部落改善は行はれるものでない。もっともっと精神的に深く入りこんで彼等の自発的向上心を喚起してやらねばならない。真に個人個人の魂の奥深く入りこんで、その成長を求め部落民を内部的に向上せしむる事、それは単に通り一遍の調査や観察で得らるゝものでない。一方に於て益々セトルメントワークの事業を拡大すると共に、真に奉仕的精神をもつた社会事業家によってこそ、はじめてその目的は達成し得らるゝのである。

7. 卒業論文について

イ. 論文のテーマ(注)

第22回生論文(大正14年1月)

婦人の社会化	井上綾子
民衆娯楽研究の一端	長柄忠
異常児管見	末永初枝
公設市場について	玉置きぬ
我国に於ける社会問題として見たる	大岩文子
児童の一斑	
婦人の地位とその経済的關係	片山早苗
農村問題と対策	藤代フウ
農村生活を如何に改善すべきか	黄少虞
我が国隣保事業の一斑	日野タツ子
社会的見地に依る乳児保護研究の一端	角田はま子
細民児童研究の一斑	寺田とし子
不良少年少女と家庭教育	高田操
水平社運動に就て	甲藤豊
我国に於ける婦人職業問題の一考察	杉本文子
女人の悩み	三原正香
女性と犯罪	田中千代
農村問題 共同論文	花田歌子
	内藤文乃
	黒須節子
本邦女子労働問題 共同論文	柴木三浦
	鈴木ぬい

児童心理学よりみた童話の研究	加藤能子	婦人職業問題	本谷まさ恵
婦人運動と家庭の将来	藤島ちよ	第26回生論文(昭和4年1月)	
女性としての立場から	広岡たか	消費組合に就て	鷺沢可菊
下婢の向上に資するために	三井敏子	我国に於ける産業組合	白井春子
不良少年の研究	伊藤タツエ	失業問題	矢田富美恵
農村に於ける学校中心の社会教育	吉田サツキ	私生児保護問題に就ての研究	正岡多賀
第23回生論文(大正5年1月)	高梨はな	社会と教育	高津初音
労働婦人の現状と組合運動 共同論文	高仲英代	基督教女子青少年とその活動	山中しま
	葛畑渥子	アダム・スミス	高山安子
		我が民族の表われたる身体装飾の史的考察	本吉さゆり
	石山きよ	女性の心理的特徴	杉山静枝
無産婦人と解放運動	黄信徳	青年期に於ける二、三の傾向に就て	鈴木静枝
経済状態の変遷と婦人の地位	朴全連	進化論と社会学に就いて	刈安喜代子
消費者組合運動の研究	李賢郷	資本主義戦争より観たる或考察	岡上手代
家庭の社会的使命	落合せつ	クーレーに於ける基本社会の概念	湯本義子
江戸時代に於ける家庭生活	川俣せい	(翻訳)	
婦人の犯罪に就いて	賀来俊子	社会現象として観たる自殺の研究	大爺岩子
作業歌	山田愛子	平安朝貴族女性の生活	花田千代
人生指導としての教育	松本房江	江戸時代に於ける階級制度とその経済状態	中島春代
江戸吉原	遠藤芳枝	幼児の教育	市原喜美子
社会環境と犯罪	荒井とく	平安朝女性の和歌より観たる精神生活	鷺尾ちぬ子
徳川時代の社会思想	秋山ふく		
自我の研究	渡辺松子	ドストエフスキイの研究	前防瑞子
少年労働と職業指導	堤ヨシ子	人口食糧問題に関する一考察	三箇島よし子
幼児の心理と其宗教教育	大平エツ	不良少年研究	坪井和子
我が邦家族制度と婦人の地位の変遷	伊勢喜代	農村社会教化の一考察	池谷とめ
児童福祉提唱とセンター組織	星野トヨ	少年職業指導に就て	正木節子
婦人と教育	沖藤ヨシエ	青少年の職業指導に就いて	西川藤子
児童保護事業の一斑	奥田俊子	少年労働問題に就いて	水野ミツエ
第18世紀に於ける仏蘭西自由思想の発達に就て	高橋はる	不良少年の本質及び環境	生田時子
肉体に及ぼす貧乏の影響を論じて	高橋琴子	我国の売笑婦に就いて	斉藤政子
不良児童の保護的研究	辻川柳子	児童の労働問題	書上喜代
教育上から見たる童話の考察 共同論文	熊井富子	江戸時代の女性	金野千代子
	船戸美智子	労働組合の任務	梅田笹子
	藤川ヤス	賃金論	野田静子
賤民調べ	児山千鶴子	国初時代より室町時代までの売笑婦に就て	岩井富子
児童と宗教 共同論文	青木コギク	婦人労働より観たる製糸工場の生活状態	加藤ちやう
	木村鹿		
児童と童謡に就いて	三宅静枝	苦力生計の一端	孫恵香
農村救済と産業組合	光吉光代	我国の農村衰退に干する一考察	須田信
童話の研究	広瀬美代	英国婦人労働運動概観	津田タツ子
神経質児童の取扱に就て	弘中美津		

現代小作問題の一考察	仲谷会津	知識階級失業問題と其対策	葛井花子
女子労働問題（中華）	邱毓芳	吾国に於ける婦人運動の史的考察	藤田てふ
家族制度及其の将来について	武藤みつ	恵まれざる人々に就て	藤田鶴代
我国児童保護事業の一斑を論ず	気仙星江	少年及児童労働に就ての一考察	日比野操
第27回生論文（昭和5年1月）		我が郷土教育に信念を得て	松岡照子
失業の研究	井手鈴子	英国労働組合小史	高橋延子
家長制家族制度に就きての研究	豊口長子	第29回生論文（昭和7年1月）	
我国善妾の史的考察並に廃妾論	中田松念	青年期に於ける女性の智的傾向	池田澄子
基督の児童観	中津美恵	フェミニズムの検討	細野なほ
下層階級の母性保護私論	小林智恵子	都市無産少年の福利の為に	金井宮子
戦争と平和と婦人 附録 戦争より	笹田生野	ホイットマンに就て	田代ヒデ
見たる売笑の史的考察		児童の色の嗜好に就て	村瀬とみ子
既婚婦人の労働とその弊害の一端に	菊池ハツ	現代の職業婦人に就て	山野井ゆき子
就て（統計的観察）		第30回生論文（昭和8年1月）	
社会問題としての我国乳児保護	湯川晃子	女学生の興味についての一考察	井上恒
貧民の家計状態について	結城淑子	維新の思想的基礎	小松ミツ
職業婦人として見たる女給の問題	峯村みつ	徳川時代社会階級の概念及其思想	小林貞留子
趣味にあらわれたる青年期に於ける	庄田さだ	労働賃銀決定の理論及び労働賃銀統	滝田ハツ
女性の心理的傾向		計表の一瞥	
後編 家族構成に就きて	植山鶴子	女性一考察	日比昭子
時代相に伴ふ離婚の変遷に就いて	保科睦子	乳児保護に関する一考察	井上市
近時台湾女性の変化一斑について	林氏晶晶	第31回生論文（昭和9年1月）	
不良少年の原因	高橋シヅイ	農村社会事業について	秦津哉香
地区調査の一端	潤ミツ	満州に於ける労働者苦力について	劉 順
何故薦が鷹を生むか	野副梨須	上古より近世に至る社会事業的事跡	奥水愛子
古代ギリシヤ時代の児童	桑原悦子	の考察	
失業に就いての研究	佐藤倭文子	グリーンの社会思想研究	卓福守
公営社会事業と私営社会事業の比較	坂巻テル	児童の自然観に就ての一研究	辻正子
我国に於ける児童映画の展開と其対	佐々木千鶴子	夢に対する児童心理の研究	永井さつき
策		託児所教育について	宮崎貞
母子保護に就いて	清水定子	少年職業指導の発達と知能研究	渋谷ミチ子
第28回生論文（昭和6年1月）		都市貧困者の実状に就いての考察	長谷川静
セツルメント	浜田八千穂	第32回生論文（昭和10年1月）	
英国及我国に於ける消費組合運動	小畑静子	乳児死亡ノ社会的考察 共同論文	江花ヤイ
我が国社会事業現状概況（婦人と社	竜田満子	都鄙別乳児死亡ノ差違ニ就イテ	五味百合子
会事業）		農村と山村とに於ける婚姻年齢及職	長田露子
我国人口問題の解決策としての移民	円沢杖子	業の比較研究（山梨県下の農村及	
婦人問題としての女子職業問題	藤崎じつ子	山村に於ける実地調査）	
消費組合の一考察	古米薫	近代女性禁酒論	功刀光子
失業と対策	小林はぎ	農村経済状態の一研究	柴田美代
駄菓子の研究	相賀テイ	静岡県庵原郡袖師村の調査	
婦人から観た婦人の立法的観察	浅沼春子	「貧窮に対する思想推移」の一考察	細田晴子
貧困と売笑婦	今井民子	第33回生論文（昭和11年1月）	
婦人問題の発展	奥山すいの	盲人の教育及保護	橘田三谷歌



大正14年 卒業論文(共同)を書き終えて
論題 婦人労働問題(婦人労働運動を担当した)
写真提供者 大槻たか氏

ロ. 共同者 あり 6% なし 65%
 無記入 29%

回生によっては卒論なしの時もあった。

ハ. 指導教授

綿貫哲雄	11	高良トミ	1
生江孝之	6	渡辺松子(実習先)	1
佐藤寛治郎	3	木村 (千葉大)	1
永井亨	2	なし	8
千輪浩	2	多くの方々	1
小熊虎之助	1	無記入	15
正田淑子	1		
中村進午	1		

卒業論文で困ったこと

資料を集めること	12
母校の図書館に外国の資料が少なかった	1
上野図書館に何度も通った。入館まで行列を作って何時間も待たされたこと	6
参考書がなかった	7
統計資料が無く、夏休み工場に入ったり、乳児死亡調査など資料集めに苦労した。	1
調査についての理解を求めること	3
幼稚園児から小学生までの絵を集めた	1
実際の社会に入ることが出来なかったので上すべりにならぬ様苦労した	1

当時は夢中で小学校、女学校の友人達の製糸女工としての生活から判断したことが多かった 1
実際にまだ自分が家庭も子どもも持っていないので空論の心配があった 1
大衆娯楽の実際にふれる事が出来なかったこと 1
テーマが広く、しぜん浅くなったようだ 1
まとめるのに友と苦労した 1
研究の方法や要領がわからなかった 1
論文というものをはじめて書かされて、勝手に書いた 1
資料が自宅に沢山あったから、苦労しなかった 1
書籍だけで実際が何も無かったこと 1
苦労をする程の調査も研究もしなかったので、恥かしさのみです 1
無記入 27

8. 研究活動について

イ. 学内

研究会に入っていた	17%
" 入っていない	50%
無記入	33%

研究会名

国産品奨励の為の統計グラフ

大震災の社会調査

研究係に所属した範囲のもの

プラトン研究会

仏教研究会

エマーソン論文研究会(服部先生)

ナースリースクール研究(高良トミ先生)

社会制度・社会経済

栄木リーダーにより修養会の時間の研究

共産主義についてサークル(クラス全員)

ロ. 学外

研究会に入っていた	10%
" 入っていない	47%
無記名	43%

研究会名

信州伊奈地方の片倉製糸工場などに行った

放課後日暮里の貧民街の研究、見学

ベーベル婦人問題研究会と呼ばけられ喜んで出席したが、カールマンハイムの知識社会学・プロレタリア経済学或いは思想より科学えなどに変ってしまったので、自分は途中でやめてしまった。

聖書研究会

児童文学・童話研究会(他大学生とともに)

。洋画を画いていました

9. 当時の愛読書

聖書	女工哀史
光明を追うて	
死線を越えて	改造
バビロンのキリスト伝	婦人公論
サンダーシングの本	中央公論
仏教書	
キリスト教関係書	成瀬先生伝
羽仁もと子全集	聖フランシスコのザンゲ
	録
哲学書	天才の伝記など
哲学以前	キューリー夫人
三太郎の日記	マハトマガンジーに関する
愛と認識との出発	書
永井潜の生命論	クロボトキンの革命家の
エミール	思い出
エマーソン論文集	文学書を多読する
美術史	小説の乱読
児童学綱要	藤村の作品 新生など
ベスタロッヂ	夏目漱石全集
子どもの生活と芸術	倉田百蔵の出家とその弟子
天才児と秀才児の環境	谷崎潤一郎
ヴントの民族心理学	国木田独歩
うその効用	長塚節
ファールブルの昆虫記	島木建作
	芥川竜之介
社会科学書	武者小路実篤
英国産業革命史論	有島郁郎の小さきものへ
大山郁夫論文集	鶴見祐輔の母
Social Organization	樋口一葉集
ブハーリンの史的唯物論	蟹工船
社会主義と社会組織	野上弥生子
人口問題	三宅艶子
ヒューマンネチャー	推理的なもの
貧乏物語	
マルクスの資本論	内外の詩集
ローザルクセンブルグの	タゴールの書物
手紙	ゲーテ全集
	ファースト
婦人解放に関する書	斎藤茂吉
本間久雄の婦人問題	北原白秋詩集
ベールブルの婦人論	野口雨情詩集

石川啄木詩集	チューホフ
三木露風詩集	ツルゲーネフ
吉田玄次郎	カラマゾフの兄弟
	英・独文学
世界文学全集	パールバック
ノラ・復活・罪と罰など	左翼文学も一通り
ロシア文学	森の生活
ドストエフスキー	光と影

10. 学生時代の友人について

イ. どういうきっかけで友を得たか	
同じ寮	23
同じ級	7
通学の道が同じ	6
気のあった友達	11
英語の勉強でクラスが同じ	4
タテ・ヨコの会	3
級全員が友達	2
撰択科目が共通	2
係が一緒	2
通学生で家庭環境と考え方が同じ	2
お互いに音楽が好きであった	1
軽井沢で同室	1
自己紹介により	1
同じ東北人	1
郷里に近い	1
住いが近い	1
話題の合う人と何となく好ましい人とある	1
無記入	8
ロ. 現在も交際しているかどうか	
時々合う	42
文通	27
年賀状のみ	15
クラス会の時だけ	12
全くなし(友死亡の為)	4
無記入	1
11. 学内のいろいろな会について思い出すこと	
イ.1. クラス会	
。1回生としての自覚, よい結果を残そうと努力した	
。1回生の会, 毎日の様でした	
。どの会にも真白面に参加したが, 心からよろこんで参加した事は少なかった	
。余り関心ありませんでした	
。成瀬先生の新婦人論を基として宗教問題を討議し	

た

- 1 人の友人の発言を今も思い出す
- 17 才で 1 年生だった為、年令差があり、言葉になじめず、だまって聞く程度
- 割合に何んでも話し合えたと思う
- 軽井沢でのクラス会、この時を機会として私に人生の一つの転機が来た
- お互いの気持ちがわかり大変良いと思った
- いつも同じで大した進歩もなく過していた自分が残念です
- 時間がもったいないくらい余り話が出なかった
- 会の運営には問題があったと思うが、民主的な方法であったと思う
- 会の重要さは認めたが、会のみに時間をとられる事のむなしさ、寮監もリーダーも会の出席率で優劣を見るのでうんざりした
- 発言者は割によく、自由に話した
- 全部いやでした
- 1 年の時は熱心に皆様の云う事を一言一句耳をかたむけて聞いた
- 自治生活の不満のみで努力実行なし
- 親しく真剣に語り合った級友、今も誠実さはうすれない
- 楽しかったが個人の会は苦手
- リーダーを囲み、学期始めに決心会、終りに結論会をした
- 皆偉い方々ばかりで隅で小さくなっていた
- 人数が少なく親しみを感じた。クラス雑誌 1 号だけ出来た「光」
- 現在まで続いて心の支えになっている
- 自己発表をすることが主だったと思いますが、もっと軟かいものにして語り合うこともよかったと思う
- どの会も事新しく愉快でした
- 2 年のクラス会で私が研究係として「神の存在についての……」討論会
- 人数が少ないので修養会を研究会にして勉強した
- リーダーを中心に、よく反省会をした

2. 縦の会

- 同級生と劇をやったこと
- 上級生・下級生との親しみを感じた
- 親密度が深かった
- どの会にも無気力の学生だった様に思う
- 先輩の頼もしい話に心打たれて人づくりになった

と思う

- タテ・ヨコの会は暖かみを育ぐくんでなつかしい
- 夏休み中の体験発表会（女中奉公に行った先輩の内輪話は印象深かった）
- 比較的楽しかった
- 人数が少なかった
- どの会にも、他の学部に負けないように怠ることなく出席し、意見も主張した
- 学部第 1 回の歓迎会
- 上級生の無い淋しさを味わった
- 最上級生となり 4 学年揃った時は嬉しかった
- 年長者は偉いと尊敬した
- 特殊な思想の方の雄弁さ、思想のしっかりしている事に心打たれた

3. 横の会

- 家政科が中心だった
- 他の科とも親しく出来た
- 自治生活の計画、反省をして横全体がまとまる
- 当時 26 回生は特に横のつながりが強く、学部を超越して親交あり今も続いている
- 何かにつけ社会科の人は、と云われた
- 軽井沢での修養会、無言の中に友情を結ばれた
- よくサボっていた
- 少々他人行儀的でした
- 横の会は楽しかった
- 人数が多い為、特定の方々の他は関心が薄い
- 軽井沢での横の会は特に印象深い
- つまらなかった

4. 係の会

- 整理係で地味、よく運動場の紙屑を拾って歩いた
- 整理係で出欠をとる役目、その為によくリーダーに呼ばれ友の動静を聞かれたのには閉口でした
- 体育係は運動会の運営の相談など楽しかった
- 趣味係で徹底したバラ園の手入れをした事が忘れられない、現在もお花を飾ることは続いている
- 編集部（家庭週報の発行）
- 修養係・研究係は親密であった
- タテ・ヨコ同じ係が一つ事に当りまとまった
- いろいろの方と話し合えて楽しかった
- 級以外の友人が出来ました
- 先輩がまじめによく指導
- 係の歌を習ったこと
- 趣味係でコーラス団を作り、よく音楽会を開いた
- 他の科の特徴を研究出来た

5. 決心会

- 学内生活のケジメをつけるにはよかった
- 最終学年の目標をきめる会等
- 常習化していたように思われる
- 心が重かった。少々恐ろしかった
- 若者らしい希望に目を輝やかしたあの頃今も心のすみに静かに息づいている
- 盛り沢山で宙に浮いているように感じた
- 少し強制的に決心させられる感じである
- 何を決心したか忘れたが、自分を鎮め、自分を内省し声を聞く習慣が出来た
- 宗教心の深い先輩が壇上から堂々と発表される姿が脳裏に残っている
- 緊張して前に出て署名する時手が震えた
- むづかしい言葉を並べねばならず困った
- この様なことは軽々発表すべきでも、出来るものでもないと思うことが重点にあった
- あまり心に残っていないが、これらの会で発表するより、実行に移す方法の提案こそ大切だとも思っていた
- たとえ形式でも一応心の区切りをつけて考えたこと

6. 結論会

- 委員の人達が云ってくれるので聞いていた
- 反省の習慣をつける事が出来た
- 女の人は何と利己主義だろうと思った
- 他の学部と区別され、特に通学生は寮生よりも人格を認められないことがあった残念でならない
- 後年になって大切さ、意義を悟りました
- 大変有意義だったと思う
- よかったと思う

7. 瞑想会

- 不徹底なのでねむくなった
- 集らなくても各自が自由にすればよいのにと思っていたことがある
- 早朝音楽がきけるのでたのしみであった。その雰囲気にはひたれたがセンチメントであまり興味なかった
- 藤原先生に瞑想に対する心構えを毎度聞かされた
- おそろしい感じ、音楽は楽しかった
- 月曜の朝の瞑想会で発表したことを思い出す
- 朝早くすがすがしい講堂で服部先生のお話が印象的

- 軽井沢、三泉寮の時を思い出す、もみの木の下のこと、きりにつまれた事など
- 三泉寮の瞑想会で「神をみた」と云う友達を羨やましく、又不思議に思った
- 静かな一時でお話を伺えてよかった
- 何の為にこの会をするのか、よく眠った。しかし、講堂の三つの額を見つめて心が鎮ったことが印象深い
- 全く閉口しました。記憶に残っているお話しはありません
- 「目に見えぬ」詠唱・奏楽、合唱は深く心を鎮められました
- 軽井沢の瞑想会は生涯忘れられない
- 軽井沢での体験発表は今でも忘れられない
- 夏の軽井沢の生活は50年たった今でも清い美しい思い出です

8. その他の会

- 初めての集団生活で楽しいこと、うれしいこと、淋しいことなど
- 会が多くて食傷気味、出来もしない事を言葉で並べるのが嫌だった
- お遊びの会は楽しかった
- 個人の会、その当時は他人の欠点を指摘する、今考えると自分を知る事が出来てよかったと思うが、当時はとても嫌だった
- 小人数で共同の生活がありましたから、どの会も相応の緊張と喜びがあって楽しい思い出がある
- クリست教中心で精神的
- 寮舎の会はすべて楽しく思い出されます
- 大岡先生のお教えありがたい
- 固苦しい会合もあったが楽しいお遊びの会もよかった
- クリスマス、卒業生を送るパーティーの楽しさ
- 寮舎の朝夕の讃美歌合唱は永遠に忘れない
- 毎週1回同期会があり、あの会はよかった
- 毎月1回の寮のお遊び会はとても楽しかった
- 3年から4年になる時の計画の会は印象的
- 寮生活は家庭の代りをするもので、その中で色々な関係、ルールを教えられた様に思う
- 寮生活の印象は強烈、紛失物などがあると徹夜で探した
- 寮舎の会では色々話し合いましたが、何としても生活経験も少なく、あまり深い話しはできませんでした

- 個人の会というのがありましたが、吊し上げの会のようで、今も余り快くありません
- 寮舎の会が一番充実していたし、有益だったように思う

11. ロ. こうした会についての感想

- a よかった 46%
- b 悪かった 17%
- 無記入 37%

a. ◦ 時代の先端を行っていたものと敬服

- 会の運営法を学んだ
- 会で意見発表したことはよかった
- ついて行けないと思ったが出席した
- 懸命になれば益があったと思う
- クラス会が一番大事だと思った

b. ◦ 拒否反応を起していた、形式的になりがちだった

- 内容の無い会がありすぎて時間の浪費の様に思い一生懸命になれなかった

12. 実践倫理に関して

イ. 思い出すこと

- 自発創生、信念徹底、共同奉仕忘れられない大切なテーマ
- 太陽は母である、宇宙の万物は太陽によって育つ、宇宙も又母体である。土、水、空気すべてその中の女性的母性は人間を創造するもの云々
- Self affection, 自己実現、隣人愛、科学と宗教に関する話が頭に残っている
- 「霊の法燈を死守せよ」麻生校長の熱弁、その後「法燈を掲げて」と改められた
- 「自然の悪条件は人智の進歩によって人間生活に役立つように好転される」これは本当だとうなづけました
- 日本はアジアの指導者的愛をもって仲よくやってゆく
- ニーチェの哲学
- 人生に対して信念も無く、考えもせず、無為に過してはいけない
- 三大綱領に関する問題を時々、の事時間問題からとり上げてお話し下さったように思う
- 「勇敢なる学校愛の実践」学校を愛すると云う事について十分に教えられた
- 麻生校長の真剣なそして敬虔なお顔、熱情溢れるお講義、テーマは忘れたが、先生のお人柄に非常にひかれた。主要点については一つ一つが長い人生の根本思想となって生活を導いてきた、今でも

困難に出合うと「心だに」を口ずさむ

ロ. 実践倫理に対する考え

- 2年生から4年生まで講堂に集めてあった講義、当時はマイクも無く聞えない事が多かったけれど、校風というカラーの出所として良いと思う
- 残っているものはない広い講堂の中、全学生が集って物音一つしない静けさの中で話を聞いた印象は強い、内容は一つも覚えていないが、しかし積み重ねて自己の確立の力がついてきたと思う
- ノートをとらないといけないのに声が小さくて聞きとれなかった
- 人間形成の勉強をしたと思う
- 忠実によく聞いたこと、時に書かされるときに適当に答えを書いた
- 毎日を生きて行くための心の支えとなっている
- 「人対象でなく神対象の生活」この教訓は今日も私を支えてくれる
- 現在の実倫は知らぬが、当時の様なら学生との距離がありすぎ不必要
- 大勢でなく他の学科と同様教室でして頂いた方がよかった
- 要点のプリントでもあったらもっと解ったと常にも思う
- 教授の講義がよくわからない
- 成瀬先生の思い出話ばかりで有意義でなかった、欠席するとにらまれるので全員出席した
- ノートの検閲があった為必ず記録した
- 学校の主義・精神を深く考えさせられたことは、学生当時より卒業後社会に出て非常に役に立った
- 今思い出すと有意義だったと思う
- 好きな学科ではなかったが、やはり人間として自分の成長の上にも大切な学科でした
- 今考えると講義の内容がむづかしかった
- 今となっては結構な事だけれど、学生時代は窮屈でした
- 時間的にねむい時だったが、先生対生徒の人としての感化の方が大きかったと思っています。真摯な先生の人格から生まれたものと思う
- 神はすべて帰一する、相手をうけ入れること、ヒューマニズム、ヒューマンリレーションにつき考えるようになった
- 実倫のノート、マーク、赤表紙…自ら大切にした。三大目標を仰ぎみた当時をよく憶い出す。桜楓樹の使命実現に強い責任感を今も抱きつづけている

- 一生忘れれる事はできません
- 今考えれば非常に新しい指導法だったと思う

13.イ. 運動会

- 4年の時幹部として運営の全責任を負い苦しみが喜びも大きく終生忘れられない
- 学校全体が一体となり学校の誇りを覚えた
- 学生が自治を学ぶのによい機会であった
- 盛大で狭い校庭に不似合の観覧席は例年満員であった
- 狭い運動場でよく出来たと思う、面白かった
- 体育係として活躍、共同奉仕の喜び
- 青年男子の入場禁止の為ソフト帽をかぶって入て来る男子もあった
- 学校全体が協力した
- 紅白の応援団にぎやか、白赤のたすきで「係り係りの心のしるし」と云う歌を唱い楽しかった
- 幼稚園から大学まで全校紅白に分れて行なわれた、日本式バスケットは面白かった
- 着物の袖をひるがえし、自転車に乗って行進したのは優雅でした。これによって自転車を覚えた
- ダンスも創作した。白井先生の音楽体操は非常におもしろかった
- ダンスが下手で出場が苦になった
- 最初の時(1年生か?)自治的に生徒の手によって運営されるのに驚きを感じた
- スポーツは何んでもしたので楽しかった
- リレーなどの対抗競技など
- 異風な光景で楽しい思い出で一杯です
- 運動会はニガ手だが済んだ後校庭を掃除した時のスガスガしかった事
- カゲの力となって働くことに意義を認めた
- 最後の行進のマーチをピアノで弾いた
- 優美なのが面白い
- 運動会の前日、寮生全員でドーナツを作り、手作りの品をハリキッテ販売し、楽しかった
- 大きな旗を両手に持って旗振りをした。宮様お成りの為、トイレにお香を焚いてお待ちした、素朴だった
- 文科の応援団長で暴れた経験は自分にとって貴重
- 1,500円の軍楽隊の費用、高価で中止した
- 応援にまで精神主義がつきまとい嫌だった
- いろいろの催のたびに勉強が落着いて出来ず疲れた事が多かった事を思い出す



第2回生4年生の時の秋の運動会の練習風景

写真提供者 井上千鶴子氏

ロ. 音楽会

記憶なし	5
無記入	11
趣味係として4年生の時開いた音楽会は楽しかった	22
もっぱら聴衆席から	2
独唱の伴奏を弾きましたので思い出します	1
音楽部員だったので友とともに企画も致しました	1
たびたび先輩の伴奏で独唱しましたので楽しい思い出の一つ	1
独唱やピアノが忘れられない楽しい思い出	1
コーラス部に入った	1
(22回生)学内のものは無く、ハイフェッツ、クライスラーなど聞きに行った	2

ハ. 展覧会

- 大正13年、4年生の時、国産品奨励展覧会をした。全校一致してとても楽しかった。食品の栄養価の比較統計など、一心に製作したのを覚えている。
- 宮様のお出でを待ち、説明に必ず「ござりまする」と答えよと云われた淀野先生の緊張した表情が残っている。
- ブルブルふるえながら説明したときのこと
- 社会学部の展示場が当時の国文館の一階の薄暗い教室を当てられ腹立たしかった
- 正田先生と理想の遊園地の模型を作った
- 少年犯罪研究発表会の時、統計表、ポスター

- 準備・役割り跡始末・勢一杯やってなつかしい
- 創立25周年記念女性文化展覧会で“近世に於ける婦人発展”を展示した
- 友人と共に仕事をする楽しさ、勉強になりました
- 皇后陛下をお迎えした時はすごく緊張した
- 先輩の活躍に目を見張った
- 只、統計などベタベタ壁に貼るのはつまらないと思った、それより小さな事でも現実に関心してみたいと思った
- サボリ屋で余り熱心でなかった
- 見物が主、心残りあり

二. その他の会

無記入

17

- グループで実習に行き、計画を立てたりよい経験をした
- 相対性原理に関する講演会がスライドを利用して行なわれた
- 友情を深めた
- 英文科の劇が楽しかった
- 許可なく演奏会を聞きに行き叱られた
- 多すぎて嫌なこともありました
- 美術愛好家で校内で展覧会を開いたこと

14. その他の行事で思い出すること

イ. 学内生活

- 4年生の時の自治制度の会
- インドの詩人、タゴールのお話を夜、講堂に聞きに行ったこと
- 卒業の時の謝恩会、この時一挙に先生との距離が近くなった様に思う
- 瞑想会の時、告別記念講演会の時など、リーダーが熱弁をふるわれた様子
- 研究書のなくなったこと
- 冬はストーヴを取り巻いてお講義をきき、家庭的でした
- 大震災のあと被服製作などの奉仕をした
- 社会的にも自然とも、外部の世界と余りに交渉をたたれていたこと

ロ. 寮舎生活

- 水曜日の早朝（寮生全員で）成瀬先生のお墓まいり
- クリスマスその他お遊びの会は楽しかった
- 朝夕讃美歌合唱
- 雛祭りの日寮舎に招待され、寮生活をしたと思った

- セタ、月見、ひな祭りなどの行事
- 大岡先生のパーティ、テーブルマナーを学ぶ
- 防火訓練、お遊び、夜の集り、卒業祝会
- お別れ会などで上手に劇をする人達を感心していた
- 暁星寮のバザーで最中作りに失敗したこと
- 三泉寮で大自然の中で朝夕祈りつづけた頃を想い出す

4. 卒業後の動向

3のところで掲載したアンケート用紙のC卒業後についての部分に対する答えを中心に社会事業学部時代の卒業生がどういった方面に進んでいったかをみることにする。

C. 卒業後について

1.イ. 卒業後すぐ

就職した 39名

就職しない 27名

ロ. 卒業直後の就職先名

神戸市役所内児童相談所書記
 協調会嘱託
 東京市社会局庶務課調査係
 隣保館の保母
 母校指導者
 東京府児童保護委員
 官立・東京聾啞学校教諭
 東京府少年職業相談所事務員
 雇一国家機関
 日清紡績・講師
 YWCA幹事
 児童保護員
 女子大附属幼稚園
 豊明小学校
 托児所保母
 幼稚園保母
 内務省衛生局保健課
 満鉄婦人協会
 愛国婦人会台湾支部事務局
 産業組合中央会主事補
 大阪市立市民館
 同仁ハウス
 東京YWCA有職婦人部幹事
 桜楓会実業部
 東京少年審判所

和歌山刑務所

桜楓会日暮里托児所保母

大阪乳児保護協会小児保健所保健婦

メジカルケースワーカー

訪問婦

内務省社会局保険部

教務副主任

ハ. 紹介者

紹介者	先生	リーダー	知人	その他	桜楓会 国会議員 父など
人数	15名	6名	8名	10名	

ニ. 職業を選んだ動機

- 当時の課長婦人が桜楓会員
- 学校からすすめられて素直に従っただけ
- 一回生として後輩が続くように
- 何でも経験しようと思った、先生という職業は自分の目的でもあった
- 先生が非常に熱心にすすめて下さったので
- 学校に求人が来てそれに応募し、面接を受けて採用になった(内務省)
- せまい日本より外地に飛び出したかったし、給料も欲しかった
- 両親の仕事でした、自分も学んだことを生きたり学びたかった
- 学生時代の卒論の研究テーマだったので生かせたらと思った
- 共同組合運動、特に農村問題に関心を持っていた
- 何か社会に役立つ事がしたかった
- 女性でもとにかく官庁に入り、その立場から婦人の向上を考えた
- 父の知人の仕事に共鳴して保育園を手伝った
- 実習に行っていた
- 指導者の指揮で
- 研究室的ムードがあったから
- 働かねばならなかった
- 婦人の社会教育の発展に役立ちたい
- 幼児教育に興味があったし、非常に必要と痛感した
- 特になし

ホ. 職業の条件について

給料	円 25~35	円 36~45	円 46~55	円 56~65	無記入	計
数	2名	8名	9名	5名	15名	39名

勤務時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	その他	計
数	2名	2名	2名	15名	2名	1名	15名	39名

有給休暇	あり	なし	無回答
数	20名	8名	11名

ヘ. 社会事業学部で学んだ事が役立ちましたか

間接的に役立った	5
基礎的な面で役立った	4
大変役に立った	13
何となく役に立った、自治生活、係のことが何百人の婦人事務員統計に役に立った	1
少しは役に立った	2
異常児童心理学は役に立った(保母)	1
学生相手なので、学生生活の延長	1
具体的に思い出さない	1
審判所にいた時は役に立たぬ、自分の勉強したのみ	1

2. 職歴について

イ. 現在までの就職状況

就職した	46名	70%
就職しない	7名	10%
無回答	13名	20%

ロ. 転職数と勤務年数の関係について

年数	1未満	1~2	2~3	3~5	5~10	10~20	20~30	30~50	不明	計
第一回目	a	12	2	4	5	3			3	29
	b	2	8	3	1		3	2		19
二回目	a	1	1	4	4	3	1	1	1	17
	b		4		1	4	1		2	12
三回目	a		3		4	2			4	13
	b					2	1	1		4
四回目	a			1						1
	b			1	1	6	2	2		12
五回目	a					1				1
	b									
六回目	a									
	b				1					1

注 a. 仕事をつづける人

b. あと仕事を持たなかった人

(例) 昭和12年2月5日の家庭週報に次のような記事があるので資料として掲載しておく。

親愛なるわが学部への報告

社会事業学部及家政学部第三類の卒業生は如何に活動しているか

栄 木 三 浦

私はこの報告を、親愛なる学部の卒業生と愛する学生達とに贈ります。

大正十年九月社会事業学部が創設せられてから昨年で丁度満十五年、昭和八年四月現在の家政学部第三類に改正されましたが、卒業生を出すこと十二回、二六七名であります。前校長麻生先生が、未だ日本に社会事業教育機関がどこにもなかった時、非常な先見の明を以て創設せられてから、卒業生は先生の御理想通りに、婦人社会事業家として社会の第一線に立ち、其の進歩発達に貢献して参りました。実に現在あらゆる社会事業の分野に、吾等の同志は活躍しつつあります、又直接それに携はらなくとも、家庭その他間接の立場から、社会の改善進歩に理解と興味とを以て寄與してきて居ります。

次に卒業生の状態(昭和十二年一月現在)を数字的に示してみますと

卒業総数二六七人中	死亡 一四人
	不明 三人
一 結婚者 一六二人	六五男
未婚者 八八人	三五男

二 何かの活動をしてゐる者

七三人 二九男

(1) 家庭を持ち活動せる者

一八人 二五男

(2) 社会事業に関係せる者

五二人 七一男

その他 二一人 二九男

現在活動しつつある七三人の状態を調べてみますと、婦人としての社会的進出振りが明かに見られるのであります、しかも社会事業のあらゆる方面に行き互って居ります。その主なものをあげてみますと、日本に於ける只一人の婦人工場監督官としての谷野節子氏あり、清水利子氏は未開拓であった病院社会事業界に優れた経験をつまれて居り、坂巻テル子氏は育児事業界に独力奮闘され、殊に同氏が急逝された父君の後を継いで東京で有数の育児事業経営に当られた事は、当時斯界の同情と注目を集めました。東京市の方面事業に小林俊子氏植山みち子氏等、養老事業に石山氏あり、職業再教育啓成社に鈴木氏あり、東京で一人の婦人少年保護司大平悦氏、基督教教化方面では幹事の渡辺松子氏を始め他四氏、産業組合運動に非常な活躍の須田春子氏、愛知県の田舎にある渡辺照子氏は氏独特の熱情を以て農村の開発指導に尽され、大阪では小児保健所の主任として黒須節子氏始め他数氏が非常に元気で活躍して居られ、堺ヨシ子氏は婦人職業紹介所の主任として立派な手腕を発揮されてゐる等挙げれば次々にあります。それで一回生から最近の卒業生迄の状態を一覧的に左に掲げます。昭和十二年一月現在

第一回生(本校廿二回生より始る)

片山 早苗 家庭教師

栄木 三浦 母校指導者

阪井 歌子 日本技術社協会勤務

鈴木 めい 農家経営

中島 フウ 手芸研究

松前 敏子 陽光ホーム経営

黒須 節子 大阪市保健館小児保健所主任

高梨 幸 至誠会病院看護婦寄宿舍勤務

日野タツ子 東京市立寺島方面館保母長

第二回生(廿三回)

石山 清子 浴風園(養老事業)

大平 悦子 東京少年審判所少年保護司

谷野 節子 警視庁工場課監督官補

堤 ヨシ子 大阪市立小橋婦人職業紹介所主任

松本 房江 母校附属豊明小学校

山田 愛子 朝香宮邸奉仕

渡辺 松子 東京基督教女子青年会幹事

小林 俊子 徴兵生命保険株式会社女子事務員監督

三浦 芳子 寂光園「〇の生活」発行

第三回生(廿四回)

大橋さかゑ 司法省保護課

川野 美子 母校図書館

富沢 光永 横浜市実践高等女学校経営

新穂 チカ 東京市淀橋区柏木方面事務所

吉田 治子 ソウエイエトロシヤ大使館

小菅 克己 東京市立本木方面館保母長

鈴木 みつ 啓成社(職業輔導)

中桐 乙女 内務省衛生局

野口 イユ 大阪市民館小児保健所主任

森本 辰野 東京市立平位託児所保母長

第四回生(廿五回)

秋田 美子 東京市立玉姫方面館保母長

小貫 栄 母校附属豊明幼稚園

城戸フジ子 ハルビンに於てホテル経営

小林 俊子 東京市荏原戸越方面事務所

浅敷ジョセフィン 大阪西区中央看護婦会勤務

清水 利子 済生会社会部主任

前原 麗 母校寮監及寮舎購買会

三野やすえ 大阪府女子師範学校教諭

石畑 とめ 東京基督教女子青年会社会部

白石 キヌ 東京郊外小学校勤務

森 満枝 東京文理科大学公民科研究室

第五回生(廿六回)

須田 春 産業組合中央会家の光宣伝部

野田 節子 大日本雄辯会講談社編輯部

山中 しま 東京基督教女子青年会社会部

吉村タツ子 札幌市愛国婦人会隣保館

池谷 とめ 鍾紡本店

書上 喜代 茶道教授人形同好会組織

齊藤 政子 四谷区二葉保育園分園

西川 藤子 大阪市保健館小児保健所

水野ミツエ 編物研究, 化粧水製造

第六回生(廿七回)

植山 みち 東京市立砂町方面館

菊池 初子 群馬県社会事業協会相愛会主事

小林 智恵 内務省社会局保険部組合課

庄田 さだ 東京基督教女子青年会会計

中田 松念 札幌市新善光寺住職

黄林 晶々 旭桜婦人会組織

坂巻 テル 同情園経営

第七回生(廿八回)

日比野 操 東京市立寺島方面館保母

渡辺 照子 農村女子教化

浅沼 春子 大阪市大賀小児保健所主任

黒瀬八千穂 カルカッタ日本人小学校勤務

山本 ティ 東京市立王子高等小学校衛生婦

第八回生(廿九回)

山野井ゆき 東京基督教女子青年会有職婦人部

第十回生(卅一回)

劉 順 満洲国ハルビン市庁勤務

渋谷ミチ子 賛育会病院

家森 正子 京都平安高等学校

第十一回生(卅二回)

江花 ヤイ 東京市中野区本町通方面事務所

五味百合子 母性保護聯盟

第十二回生(卅三回)

橋田三谷歌 桜楓会託児所

志村 和子 東京帝大精神科脳研究所

家政学部第三類第一回(卅三回)

佐藤弥寿子 東京市立竜泉寺方面館保母

鈴木あい子 聖路加国際病院社会事業部

馬 鳴鶴 奉天女子職業学校

坂内フジノ 興望館セツルメント

吉川 澄江 中央社会事業協会研究生

近代社会事業の先進国である英国、米国等の諸外国では、社会事業と云へば婦人の仕事となって、統率者も実務者も殆んど婦人によってなされて居ります。社会事業が天性婦人に適してゐる意味で、この国に於てもやがて、さうした時代が来るであらう。社会事業学部としては数年前社会状況の影響をうけて現在の家政学部第三類に改正されましたが、しかし此種学部を有する多くの学校が自滅廃止の憂目に遭つたにも拘はらず吾校だけは更生せる内容充実した姿を以て継続せられ、一時学生の数も寧ろ細きを感じましたが現在約七十名の多数に上つて更生発展の意気を示して居ります。婦人や社会事業家の教育養成に国家的貢献をしてきた吾校は更に将来に向つても大いに自重自任してゆかねばならぬと痛感する次第であります。

こうした社会事業学部出身者以外で社会事業に従事していた人が多数あったようである。昭和12年6月11日の家庭週報に次のような記事があるので参照されたい。

主として 社会事業方面に活動する人々 を語る

榮 木 三 浦

さきに社会事業学部家政学部第三類の卒業生一級の活動状態をかきました時、続いて他学部出身者でこの方面に活躍されてゐる方々の事も報告して、敬意と親しみとを表したいつもりで居りましたが、何かととりまぎれて遅くなってしまひました。

事業の上では親しい同志でございますから、学部の区別等私共には何の意味もありませんが一般の方々に参考にもなり、亦面白味もあるかと思ひましたので茲には学部別にして出してみました。又狭く社会事業と云ふには当りませんが、一般社会教化改善運動、経済方面に活動されてゐる方々の事も含めてかきました。私共にはどうしても政治、社会、法律、経済方面の社会的活動の世界も、私共の関与する分野のやうに思はれます。同志等と申してはおこがましく御迷惑に思召す方々もあるかと存じますが、お赦下さいませ。

卒業生の活動状態を、職業別に調査してみる事は色々の意味で大切な事であると思ひますが、まだ全体に亘つて調べはございませんので数字的にははっきりと分りませんが、みる所教育方面に従事せられてゐる方が多い様に思はれます。ざっと五〇〇名近いのではないかと思ひます。それに次いで多いのはここに掲げる社会事業及社会運動と云ひますか、本部に解つてゐるだけで百十一名あります。この中で社会事業学部及家政学部第三類出身者が五二名、他の学部出身者が五九名となつて居ります。只茲で申したい事は社会事業科出身と云ひましても学校の歴史からみますと一般卒業生の第廿二回に一回生が出て居りますので、未だ社会的に認められるだけ伸びてゐないのに対して、他学部出身者六〇名中廿二回以上三二名の人々の活動状態を見ますと、流石に後者には、社会的地位も優れ、事業の内容組織等も立派な方々が沢山あります。私共は此等の多くの先達先輩をもつ事を無上の喜びとし、光榮と致して居ります。

次に学部別に従つて掲げてみます。

◇家政学部(第一類) 二十三名

(2) 服部 たい 農村社会教化(三重県)

(4) 青山 テル 中央有都学院女子教化部

(5) 富田 栄 愛染園経営

(6) 丸山 千代 雙壁婦人の家経営

(7) 千本木道子 基督教婦人矯風会

(11) 岩崎よしを 名古屋市押切紡績工場

(13) 奥 むめお 働く婦人の家婦人セツルメント経営

(13) 有岡 利久 桜楓会児童相談所主任

(18) 松尾まつゑ 浴風園(養老事業)

(19) 田沢 とみ 桜楓会託児所主任

(19) 佐藤あや子 東京市本郷愛染方面事務所

(20) 本多 ちゑ 大阪市長尾小児保健所主任

(21) 国安 ぬい 東京府南千住隣保館

(22) 須田 智嘉 光雲寮(少年保護)

(22) 久木田 蓮 大阪少年審判所少年保護司

(23) 田中 つる 横浜市第四方面館

(23) 金政 芳栄 大阪市小橋婦人職業紹介所

(23) 新井 うた 東京市深川産院

(24) 岸本 きく 東京市渋谷方面事務所

- 24 谷口まさ子 東京市竜泉寺母子ホーム
25 阿部まつい 東京市向島方面事務所
27 金沢 清子 東京市三田方面事務所
31 海老名 潔 産業組合中央会家の光編輯部

◇師範家政学部（第二類） 十三名

- 13 里吉 静 山梨実践裁縫学校経営
14 小滝 清 浅草区玉姫市民館
19 大浜 英子 婦人同志会常任幹事
21 日比 勝代 大阪市西野田小児保健所主任
21 松田八重子 東京府社会課
24 妹尾 静江 横浜市第四方面館
25 多々良綾子 大阪市北恩加島託児所
30 岡田 孝 YWCA、駿河台女学院家政部
30 渡辺 孝子 産業組合中央会、家の光編輯部
30 原田ミユキ 家庭購買組合
31 古賀 光音 同
34 青山 宮子 YWCA有職婦人部
34 東恩納圭子 桜楓会児童相談所

◇国文学部 八名

- (3) 小竹 清子 東京市立雙学校
17 出淵みや子 東京市浅草区日本堤方面事務所主任
19 丹羽 雪揣 大日本紡績関ヶ原工場
20 東福 タカ 六華園（少年保護）
21 伊知地静子 白道園経営
28 牛島 安 産業組合中央会、家の光編輯部
28 志立よしの 同
30 原田やう子 家庭購買組合

◇英文学部 十五名

- (1) 押川 美香 家庭購買組合幹事 同会婦人会委員長、日本消費組合婦人協会委員長
(2) 小林 珠子 大日本聯合母の会総務理事
(6) 横河 英子 子供のお里経営
10 安斉とみ子 YWCA、会員教育部
12 小栗 将江 国際聖路加病院
16 吉見 静江 興望館セツルメント主事
16 宮田 育 東京市社会局福利課
19 益田 国香 大森区社会課
23 中田 ヤス 大阪市中央職業紹介所婦人部主任
24 波多野勤子 日本女子大学校児童研究所
25 高島 貞子 YWCA家庭婦人部
28 田代 文子 国際聖路加病院社会事業部
29 網代 洵 YWCA受付
30 和田 スイ 内外細物株式会社女工取締（蒲田）
34 飯井 俊子 YWCA

上掲の中には実に社会的に見て、優れた社会事業家であり社会運動家である方々があるのであります。人も知る丸山千代子姉は東京での婦人社会事業家の長老であり、その保育事業に残された功績、只今は耳と口の不自由な聾啞婦人に明星の如き光を与へてゐて下さいます。

大阪の富田栄姉は夫君と共に私設社会事業家の典型として関西に

重きをなしてられます。

千本木道子姉は矯風会の幹部として、又婦人の社会運動家として堂々たる地歩と実力とを持たれ、奥むめお姉は又姉独特の熱情を以て「婦人運動」の編輯に近頃は「働く婦人の家」を根城に職業婦人の指導教化に活躍されてゐます。

英文科では、先、押川美香子姉が斯界に定評ある家庭購買組合の婦人幹部として重きをなし近頃は日本消費組合婦人協会の総師格に立たれてゐます。又小林珠子姉は大日本聯合母の会の総務理事として毎年六月八日の「母の日慰安会」は餘りにも有名であり、その他にも母の立場から力強い婦人運動をされてゐます。安斉とみ子姉は東京基督教女子青年会の中核幹部として活躍され、小栗将江姉は病院社会事業家として優秀な経験を持たれてゐるし、吉見静江姉も亦江東に於ける婦人の隣保館主事として光って居られます。

国文科の小竹清子姉はあの熱情を以て、十年一日の如く孜々として聾啞教育に精進され、その尊い奉仕と犠牲の生活には頭が下ります。

紙面の都合でもうこれ以上かけませんが、茲に記さなかった多くの若い方々の中には、よくその事業を愛し、職場を守って苦難の中にも、婦人の伸びゆく新しい活動分野に力強い地歩を以て進まれてゐます。実にその沈黙の活動には尊く涙ぐましいものがあります。私は後日何かの方法で記することに致しませう。

(註) 上掲の中間違つてゐる点、御移動等の節は御しらせ下さいませうやう願致します。

3. ボランティア活動

した	しない	無記入	計
25名	17名	24名	66名

- ・地域婦人の向上の為の講演会
- ・老人ホームで人形づくりの相手
- ・老人原爆ホーム・原爆病院の患者・職員（50名）に茶・いけ花教授（奉仕）
- ・近所寝たきり病人を毎日訪問
- ・寝たきり老人のリハビリテーションに行った
- ・耳のライブラリーを開館（藤沢市・盲人図書館）
- ・重症障害者施設、筋ジストロフィー協会理事長
- ・養護施設訪問
- ・愛光女子学園・篤志面接員
- ・少年保護司、少年院特殊面接員
- ・民生児童委員
- ・家庭裁判所調停委員
- ・地域婦人会役員・農協婦人部役員
- ・キリスト教婦人矯風会役員
- ・精薄児育成会理事
- ・全国社会福祉学会員
- ・人権擁護委員
- ・九州社会福祉研究会員

- 。 婦人少年室協助員
- 。 児童福祉審議会委員
- 。 老人相談員
- 。 その他

4. 卒業後進学の有無

イ. 進学した

進学した	進学しない	無記入	計
8名	24名	34名	66名

ロ. 進学先

- 。 24才～27才 共立女子専門学校（被服・編物）
- 。 無記入 東大経済学教室（聴講生）
立教大学文学部宗教学教室（4年間通学）
- 。 無記入 東大教育学部研究室（青年教育について）
日本神学校（聴講生として）
- 。 53才55才 東京高等鍼灸学校（柔道整復科）
- 。 3年間 アテネフランセ
- 。 和裁
- 。 20才～21才 太平洋美術学校（洋画）
- 。 27才～31才 共立薬専（薬学）

5. 資格取得の有無

資格とった	資格とらない	無記入	計
20名	21名	25名	66名

イ. 資格名

- 茶道教授（表・裏） 6
- 華道教授（小原流，和風会，草月流ほか） 6
- 書道教授 1
- 中学校教員免許（社会・家庭2級） 1
- 社会教育指導主事 1
- 内閣統計講習修了 1
- 衛生管理者 1
- 産業カウンセラー研修一回生 1
- 美容師 1
- 柔道整復師 1
- 保母 3
- 経理2級免許（通信） 1
- 薬剤師 1

6. 表彰等について 無記入 49名

- 。 勲三等瑞宝章 1名
- 。 法務省関係 7名
- 。 厚生省関係 10名
- 。 文部省関係 2名

- 。 地域活動その他
- 。 短歌・水墨画・書道・洋画など入選

7. 著書・論文・文集など

書 名	発 表 年 時
社会事業誌「女子保護法による扶助家庭を視察して」	昭和13年
婦人新報誌「遺家族援護事業について」	昭和15年
文部省 純潔問題	昭和26年
愛光10年の歩み「慶弔諸式の心得」の一部	昭和36年6月刊
随筆「お母さんは1年生」	昭和34年
論文「幼児の質問に就いての考察」	昭和14.6.10
。 「農村婦人の読書傾向と指導に役立つと考えられる回覧紙に就ての私見」	昭和26.2.10
著書「えっちゃん」— 育児メモ	昭和33.4.15
「女工問題について」新聞雑誌にいろいろ	昭和元年～6年
歌集「落春」	昭和46.11.
金城学院大紀要	昭和40.42.

8. 結婚について

結婚した	しない	無記入	計
59名 (90)	6名 (9)	1名 (1)	66名 (100%)

結婚年齢	20才	21	22	23	24	25	26	27	28
数	1名	2	10	7	7	7	7	3	3

	29	30	34	35	36	38	計
	5	2	1	1	1	2	59名

子ども	有	52名
子ども	無	7名

子ども数	1名	2	3	4	5	6	7	無記入	計
数	11	12	10	9	5	2	1	2	52

配偶者	あり	29名
。 なし		30名

9. 現在誰と住んでいるか

1人	16	娘夫婦の家	3
配偶者	14	娘と長男の息子	1
夫と子供	9	子供	1
夫と長男一家	3	妹など	1
長男一家	11	母，妹，子供	1
夫と母	1	甥家族	2
夫と長女一家	3	計	66

10. 現在の家族数

1名	2	3	4	5	6	7	8	その他	同居数内に 子ども家族	計
13	12	14	14	9	6	3	3	1		66名
20	18	21	75	14	9	45	45	15		100%

11. 自分を生かす為に何かしているかどうか

習字	6
画（日本画，洋画，水彩，油絵）	5
茶道	4
いけ花	4
謡曲	4
鎌倉彫	3
琴	3
短歌	3
カウンセリング	2
宗教心理，キリスト教神学	2
造花	1
洋裁	1
和裁	1
手芸	1
染色	1
福祉のこと	1
小説を書く	1
作文グループ	1
三味線	1
ピアノ	1
英会話	1
英語	1
仕事上の勉強（ケース・ワーク）	1
俳句	1
読書グループ	3
園芸・草花・野菜・みかん・栗栽培	3
現在70才，上智大学に経済学の聴講	1

12. 現在所属している団体名

- 山梨県人会の評議員
- 同人雑誌「現在人」の同人
- 共産党員，婦人団体に会費を出すだけ
- 少年友の会（家族関係）
- 婦人団体連絡委員会幹事
- 延岡市母子福祉会長
- 日本キリスト教婦人矯風会
- 法務省矯正協会，保護司会
- 家庭裁判所参調会

- （財）小さい奉仕の会
- 関東保護OB会副会長
- 愛光女子学園，篤志面接委員
- パイロットクラブ
- 日本家庭福祉会
- 有権者同盟
- 汎太平洋東南アジア婦人協会
- 婦選会館
- 読書会
- 地域婦人会
- 日本保育学会
- 藤沢市をよくする会（福祉・公害）
- 平和協会
- 大学婦人協会
- 婦人民主クラブ
- 婦人国際平和自由連盟
- 乙訓の文化遺産を守る会，向日町社会福祉協議会
- YWCA，ルーテル教団婦人会，金城教会など
- 母の会

13. 現在より考えて当学部に入って

良かった	58名
悪かった	1名 … { 英文科に入って語学をすれば よかった }
その他	2名 … { 卒業後40年も経つとすべてが自然 の中に溶け込んではいきりしない }

イ. 良かった理由

- 実際に社会事業につけなかったが世の中，第一線のことがわかった
- 社会の暗い部分に目を向け，社会に役立つことを70才の今日まで出来ること
- 地域社会奉仕に役立つ
- 当時は強く感じなかったが，物を考える力，理解力といった自力の根本を身につけることが出来た
- 生涯を通して仕事に備えての基礎になる学問を与えられたこと，各最高の教授方の講義を伺えたこと
- 現在までの職業が社会事業学部の卒業生であったことに結びつく
- 入学当時のイメージ通りになった
- 同情と理解力を持って隣人を考える心を持つ事が出来た
- 現在の社会状況は特に児童問題・婦人問題等に専門職として必要である
- 就職のキッカケになったこと

- いろいろの環境の異った児童達に接することが出来、ひいては自分の子どもを育てるについて役立ったこと
 - 現在福祉事業を起したことは、やっぱり学んだおかげと思う
 - 身障児を持って、履歴が生きた感じ
14. 最近の社会的な問題で関心の深いもの
- | | |
|--|----|
| 老人福祉問題 | 22 |
| 重症身障者問題 | 9 |
| 公害問題 | 7 |
| 国際情勢(日中・日米・ベトナム) | 7 |
| 経済が如何に社会を支配しているか | 2 |
| 情報過多から身を守るには | 2 |
| 社会保障問題(特に年金について) | 2 |
| 平和憲法が守られず、国防費に多くの予算が使用され人権が守られていない | 3 |
| 若い人の考え方と行動、礼儀など、修身が無くなったこと、知識偏重の教育が社会悪を生みだしている | 10 |
| 青少年の在り方と少年非行、労働問題 | 4 |
| 働らく婦人と子どもの問題、学童保育 | 4 |
| 児童、青少年の教育の問題 | 9 |
| 核家族・新しい家庭生活の在り方 | 7 |
| 嫁と姑の問題 | 1 |
15. 現在の学生に期待すること
- 勉強出来るのは学生時代なので、他に心をむけず励むこと。一生涯何か一つの専門を持つ様学生時代から心掛ける事
 - 現在程社会的な問題を真剣に考える時代はないと思う、働くのも研究するのも自由、しかも社会からも大きく要求されている事を忘れない様に
 - 社会福祉の専門職として、真白面に科学と実際とを統合出来る人になってほしい
 - 在学中に将来の方針を定め、専門の知識、技術などを充分勉強されること、卒業後の方針に対し資格の取得(例えば官庁なら上級試験、その他司法試験、弁護士の資格又は学位論文の提出等々)
 - 在学中にある教授から云われた言葉、“在学中に学んだことはほんの入口だけ、ほんとうの勉強は社会に出てからだから、学校での勉強で思い上ってはいけない”と、まさに真理でした
 - 家庭に入った方でも何等かのボランティア活動に参加してほしいと思う
 - 専門家としての実力と心構え
- 書物や講義も勿論大切なことであるが福祉においては事実をしっかりと各人の目で見えて確かめてほしい。その上に立ってでなければ仕事が生きてこないことを考えにおいて、折にふれ機会を把まえては実際面を知ってほしい
 - 宗教を抜きにした社会福祉は魂の無いものとなりますから、併行して勉強して下さい
 - 奉仕の心、親切な心を忘れない様に
 - 商業主義に負けない正義心
 - 直ちに問題を思想的に結びつけないでヒューマニティに立って考えてほしい
 - 社会の多数の幸せという事を中心にして考え行動して貰いたい
 - 現在の社会福祉事業の裏にあるマイナス面、一般が他人の問題としてでなく、自分の問題として日々の生活に繰り入れていってほしい
 - 使命感を持って勉強して頂きたい
 - ようやく日の当る学科となりました。基礎学をしっかり身につけて、殊に法令条令に強くなって下さい。そして温い心の持主になって下さい
 - 元気な方達ですから福祉国家を遣る自分であることを自覚して大衆を指導してほしい
 - 社会福祉の個々の仕事に練達することと同時に何故そうしなければならぬかを常に考えて、その道に進んでほしい
 - 実習生をお預りしているが、昔の学生と違い調査活動も分析作業も順調に出来て又教職課程の撰択も許され羨しいかぎりですが、中には教育に対して誠に不熱心、教授に対する激しい批判又自分の今後の箔付の為の学校生活かと疑問を抱く時あり、お嬢さんの教育態度を感じる。卒業間近の学生として、もう少し実務的にも役立つ教育を与えるようにしては如何
16. 学んだことで現在の生活に生きていると思う事柄
- 22年間調停委員をしていること、その基礎は学部で学んだおかげです
 - 世間、社会に対して物の考え方が広い、人様のお役に立つことに喜びをもつ
 - 現在居住地の老人クラブの会長をして飛び廻っている。結構楽しく、この位のことをしなければ申訳ない
 - 新制高校に望まれて7年間講師生活をしたこと、生徒への指導面で女子大時代の修養が役立った

- ・貧困，その他社会問題について充分理解が出来ること，特に児童問題，母としての問題
- ・社会の底辺，社会機構のひずみの犠牲者に理解と尊敬を持つことができる
- ・社会学，経済学，心理学，精神医学，教育学など
- ・物事を社会的に考えようとする事
- ・児童を見る眼を養うことが出来たお蔭で6人の子ども達が道をあやまらず，成長，それぞれ家庭を持ってからでも心配なくやっている事が何といっても一番有難いと思われる
- ・現在は主婦ですので栄養学，料理を学んだこと
- ・直接どうと云う事は無いが，何か物を判断する時の基礎となってその時身につけた知性が働いていると思う
- ・考えだけでも，人は皆助け合って少しでも不幸でなくなる様に心掛けようと思うことに生きている
- ・社会の底辺を見聞してきたので，すべてに感謝出来ること，又教員生活で荒川の貧困地帯に就職したので役立った
- ・すべての社会現象を社会組織の上に立ってみます
- ・国の福祉的面の理解が出来ること，社会思想の理論の理解が出来ること
- ・社会人として責任を持って行動すること

17. 学校生活全般に対する印象

- ・学課が多くて時間が少なく（休講が多かった）簡単だったことに不満を持っていた
- ・英語の原書を使用する講義は予習時間が足りなくて困った
- ・修養会，共同生活により自己洞察を深めることに苦労した
- ・母校の三大目標を体得すること

以上でアンケートから得られた資料の紹介はおわるが，ここに社会事業学部時代の卒業生並びに当時の研究室スタッフが中心になって運営した桜楓会社会部社会事業グループ会についての「家庭週報」の記事のうち主要なものを資料として紹介しておく。他の記事は後掲のリストの中に入れておいた。この会は，昭和8年，社会事業に従事しているもの，研究をしているもの，学生等が中心になって，お互いの親睦を図り「お互いの事業を理解し助け合うと共に，会員間に社会事業の如何なる重要性をもって時代的に発展しなければならぬかの理解と同情との如何にしたならばより広まるであろうかの問題を中心に」（「家庭週報」1221

号，昭和9年4月20日）した形で発足したものであった。当時，この会に参加された松本武子教授（現社会福祉学科教授）の話によると，月1回持たれて大変熱心な研究会であったのである。

体験
希望

恵まれぬ人々を……………

照らすともしび……………

社会事業グループ会にて

社会事業の為に真心をもって毎日を働いてゐる方達が姉妹にも沢山ある事は，会員一同としても感謝にたへない。既報の通り旧臘十八日の社会事業グループ会は忙しい頃にも拘らず多数の出席者を得，井上会長，大橋理事も臨まれ中々の盛会であった。

或は市の社会局に，或は種々の社会事業団体に，又或は自己経営に於て，それぞれの仕事を続けるには並大抵の苦勞でない事を痛感するのであったが，一般の人々の認識によっては又順調な発達が遂げられよう。

白道園の伊地知静子氏の如きは会員諸氏よりの励しの手紙に勇気づけられ，心の籠った諸々方々からの贈物によって細民街の濡される事を非常に感謝された。姉は週報紙上にも度々筆をとられてゐるが，ルンペンを引上げるよりも子供の悲惨さを救ふ方に力を尽されてゐるとの事であつて，今度市より認められ市の委託収容所として児童を収容する一方，無料宿泊所として此寒空から人々を救ひ，暖い同情から人事相談をするのだ，ボロ市を開くだの色々事をされてゐる。

同情園の酒巻テル氏も，故父の時代より却て孤児等の収容人員もふへ，一方物質的にも精神的にも後援衰へず経営が楽になって来たのは，人々の同情の賜と喜んでゐる旨を元気に話された。とはいへ，千葉の分院をも合すると両方で約百人の収容児童を抱へ奮闘されてゐるのは涙ぐましいものがある。

陽光ホームを経営の松前敏子氏は社会事業と銘をうたない為寄附を仰ぐ事もなく，僅に山羊乳を売捌いた利益が辛うじて助けになってゐると話されたがこれ又手のかゝる乳幼児から学齢以前迄の弱い子供を，実費でとはいへ実際は無料の状態が多いにも拘らず親身になって尽されるのは尊く思はれる。

婦人セツフルメントに四年間の経験を持つ奥むめお氏は，目的を近所の人々のお世話をするだけに置かず，世の婦人達に社会事業的興味を持たせる様に連絡をよくとる事に力を注がれてゐるが，広く此運動を行渡らせる事は目下の急務であらう。規模が大きいだけに経営の苦心も察せられる。

又聖路加病院の小栗将江氏などは，病気が可成り軽くなつてゐる子供達に対して作業をさせる事を試みられてゐるが，精神的に眠った状態に陥つてゐる子等を活潑にするといふ好結果を生んでゐるとは嬉しい。

其他にも諸姉の現状報告，経営の方法等，非常な苦心のある中を倦まず努力されてゐる事が語られる一語々に窺はれた。

さて，卒業後社会事業に携はるべき社会事業学部の学生をどの様に教育する必要があるかに就て種々意見が出た。それは社会事業家としての基礎教育は出来てゐても，その実際に近づく技術の訓

練が足りぬ事、むしろ實際方面の家事の手腕を必要とする事、見学にしても組織的な方法により実習したい事、それには学校直接の關係に実習所を設けてそこで養成した人々を社会事業に向け、会員の事業を後援する形ともなしては、等々であった。

市 社会局の植山みち氏は、中産階級の将におちて行かうとする人々と細民等の救護に當ってゐる立場からの感想として、誰でもが、社会に於ける連帯責任者であるとの自覚を呼び覚ます必要がある事を述べられ、多数によって賛同された。役所に於て社会事業の事務に当る人々が多くは知識階級職業紹介所から招かれた、言はゞ失業者として見なければならぬ人である現状は、實際の社会事業の性質を考へて見ても甚だそぐはない事であるが、それだけにまた此の方面で人物を要求する事も非常なものであらう。

当日出席された方々は、

小栗 将江	奥 むめお	国安 めい	伊地知静子
松前 敏子	小菅 克己	石畑 とめ	神吉 登代
植山 みち	峯村 みつ	坂巻 テル	藤田 鶴子
丸山 千代	松田 八重		

の諸姉であった。

1207号、昭和9年1月1日

麻薬中毒患者

救済事業について

生江 先生に伺ふ

社会事業グループ会にて

日時 十月七日（月曜日）午後六時—九時

場所 桜楓館会議室に於て

講師 生江孝之先生

演題 麻薬中毒者救護に就いて

厳しかった残暑に、毎日の激しい労働に疲れてゐる私達が同じ職場を持つ親しみ深い、意義あるこの会合にはいつも大なる期待を持つと同時に自分達の会だと言ふ意識が判然としてゐると見えて常連のお顔が揃った。只物淋しい感じがしたのはいつも御元氣な小栗、奥、吉見諸氏の御欠席であった。然し学生時代四ヶ年間も色々御指導を仰いだ恩師の御立派なる御人格に接し、あの耳の奥から消へ去らない熱情的な明朗、快速な御講義を呼び起し一ヶ年乃至十年の昔を回想し先生の尊い御体験を伺ひ私達の生活指針を示され、自己の生活反省をなすべき全くよき機会を得る事が出来た喜びを感謝し且つ先生の御健康と御業績の御発展を祈りつゝこの静かななごやかな会を閉じた。以下簡単に御講話の要点をしるす。

〔一〕 麻薬中毒者救護の必要

麻薬中毒は朝鮮人（日本在住者四拾萬—五拾萬）を中心とした問題である。東京市内在住朝鮮人四萬中三千人の麻薬中毒者の多きを算するのである。

其の原因は病氣のためが七割内外、其他のものが三割内外といふ割合であるが大部分病氣治療のためフトした偶然から中毒者になったものである。

朝鮮人は概して粗食にあまんじ、大量を食し刺激性食物を好むため甚だ胃腸疾患が多く、従つてこの際医師の診断を乞ふ餘裕なきがため法律の網をくゞつて密売者から麻薬（ヘロイン—回量〇・〇〇

二）を得て其の苦痛を脱れるのである。其の他はアヘンと同じ目的に使用されるのであるが、兎に角さういふ動機から二、三回五回と重なるに従つて量も増し一日三瓦乃至五瓦の注射を必要とする症状になるのである。このため體質は変化し、薬がなくなれば非常なる苦痛が始まるのである。中毒者は道徳性、自制力が失くなり、勿論如何なる職業にも従事出来ない。所謂街のルンペンとなつて一日三十銭—三十五銭の収入を以て生活費にあてゐるのである人が現在八千人から一萬人もある。従つて彼等は他の収入の手段として窃盗を常習となす。かゝる中毒者は三々伍々に各所にグループを作つて之に親方があり、彼等の窃盗品を故売して其の注射薬を高価に売付け二重の暴利をむさぼりこの資を貯へてゐるのである。この親方は手下に知識階級の人々が多い只生さんがために悲惨なる搾取をしてゐる。彼等の窃盗は只単に薬価を得るがための手段であるから所謂のこそ泥であるため被害者も訴へず、又警察側も収容し切れないので見逃す状態である。この麻薬取締法は昨年から実施され、当局も現今は厳重に取締つてゐるから、密売者も分散しつゝあるが、中毒者側にとっては全く肉体を襲ふ死の苦痛を逃れんための必要から、次から次へと依然として密売者が生れ全く手に終へぬ状態である。

〔二〕 麻薬中毒救護会の概要

以上の如き状態であるにも拘らず救護施設の無きを嘆じ真に憂慮すべき状況に鑑み人道に於て社会福祉より更に進んで國家的名譽のため適切な救護施設を起すべく昭和八年二月四日遂に有志、発起人会を開き同年同月十七日麻薬中毒者救護会が設立された。現在収容者実数は二百七人にて全部解毒し死亡者一人もなき百%の効果を見てゐる。収容定員数四十五名である。

中毒解毒方法には代療療法、漸減主義療法、禁断主義療法の三種がある。当所に於ては専ら禁断療法に依る。即ち二晝夜乃至四日間には甚しい苦悶を訴ふるが七日間にして全然解毒する。従来この方法は心臓麻痺の恐があると云はれたが実証の結果全く危険なきと認められる。

斯くして先づ受療希望の決心比較的強固な重症者を収容して精神療法をやらせる。一週間は食物を摂取せず少量の水を与へるのみで一週間目から漸次快復し簡易なる作業に依り体力の快復を計り約三ヶ月にしていづれも普通の労働に耐へる健康状態に到達する。其の後適当なる引取人ある場合は之に委ね又再発の虞なしと認むるものは適当な職業を求めて何れも退所せしめ或は引続き作業場に於て適当な内職を習得せしめてゐる。然し其の後の誘惑が多いが彼等の身辺の境遇を変へ仕事を与へ保護すれば八割は完全に救護出来得ると思ふ。

この会の仕事が日本に於ける土台指針となりこの問題が解決出来ればと専ら願ふのである。この問題の解決が出来れば世界への誇であるこの仕事を通して人類への光明を与へる事になれば喜ばしい次第である。（秦津哉香記）

出席者氏名（敬称略）

小塚、出野、藤原 栄木、野々宮、加藤、小竹、小杉、植山、石畑、田代、佐藤、田沢、渋谷、永井、五味、富沢、橋本、秦

1284号、昭和十年十月十八日

社会局長を迎へて

社会事業グループ懇談会

桜楓会社会事業グループにては、六月十五日午後五時半より家政館食堂に於て、東京市社会局長 沢逸興先生御出席の下に懇談会を開いた。いつものやうに夕食を共にし個人紹介を終って沢局長より次のやうなお話があった。

「先日来今日の会に何か話をする様にとの事でありましたが、私から話をするより、実際社会事業に携つておいでになる皆さんから、お話を伺いたいと思つてまゐりました。が、この機会に私の社会事業に携つた浅い経験を先に申し上げたいと思ひます。

社会事業は最近十年間に非常に発達したのであります。私の子供の時には慈善事業といつて、金持が貧乏人に恩恵を与へる意味の事でありました、社会事業はお互の義務であり責任であるといふ所に、慈善事業とは違つた意味をもつてゐるのであります。それは例へば身体の一部に疾患があつても、その一部に限らず身体全体が責任をもつて、是を治さうとする力をもつてゐると同様であります。

支那の昔の書物に「下医は人を医し上医は国を医す」と書いてありますが、例へていへば社会事業は国の病を治す上医にも等しいものであります。我国にも慈善事業は古くからあつたことは皆さんも御承知のことと思ひます。畏れ多くも皇室におかせられても、古くから慈善事業を行つておいでになりました。支那でも慈善的の社会事業は古くから行はれて居たのであります。孟子は或時せいせん王にあひ「お前をよく王道といふことを説いてゐるさうだが、それは何であるか」と尋ねられたのに対し、孟子は是に答へて「世の中には梁棄孤獨といふものがあります。こんな不遇の人に対して恵みをほどこすのが即ち王道のはじめであります」と言つて居ります。これはたしかに孟子がせん王に社会事業をといつたものと考へられます。

社会事業は近々十年の間に非常に発達して、今の広田内閣も社会政策に力を用ひてゐられます。社会事業が盛んになることは、一面からいへば憂ふべき現象であります。それは社会のどこかに欠陥があり或は病人があり、貧乏人が出来るといふ事で社会事業の対象はこれらの欠陥や貧乏人を主として起るといふことは悲しむべき現象であります。社会事業の目的は、社会事業を行ふ必要のないことを目的としてゐるのであります。医者が病人を治して病氣のない健全な人間にする事を、目的として居ると同様であります。

老子は「刑は刑なきを期す」と云つて居りますが、是も亦同じやうな意味であると思へる事が出来た。もう二十年も前の事ですが、私が奉天にまゐりました折、馬賊の死刑になるのを見ましたが、その方法が丁度日本の四五十年も前と同じ方法でありました。その刑場に「刑は刑なきを期す」といふ老子のことばの掲げられてゐたのを今でもはっきりと覚えて居ります。

刑と社会事業とを比較してはいけなかも知れませんが、前にも申し上げました様に、社会事業は社会事業なき状態を目的として行はれてゐるのであります。然るに社会事業はこの理想に反して實際は是を行へば行ふ程、益々社会事業を必要とする社会状態になつてゐるといふ事は悲しむべき現象であると思ひます。と述べ、更に安芸の宮島や台湾が中産階級のみで社会事業を行ふ必要のない状態を語

りこの宮島や台湾の様に社会事業を行ふ必要のない社会を現出するのが社会事業の目的であります。近頃社会事業家として婦人の方々が立つて居られますが是はどうしても婦人の手によらなければ、どうしても完全にはなしとげられない事だと思ふのであります。

前にも申し上げましたが、私は社会事業に対して實際の経験がうすいので、實際に携つていらっしゃる皆さんから体験談を伺つて私の、今後の参考にいたしたいと思つて居ります。」

と、局長のお話を終つて記念の写真を撮り愈々懇談に入り各方面の戦場から様々の意見が出たが、要するに

一、サラリーの問題 では「一般に薄給の上に最初の一年は日給である。今少し待遇をよくして落着いて働きたい」といふので、
二、方面事務所長住込みの問題 では、「所長の住込みは私的の交渉が多くなり、遠慮しなければならないので、事務所式に留守番をおいた方が仕事の能率があがると思ふ」といふので、
三、婦人の地位向上 に就いては、最近所長心得となつた出淵みや（十七回国）を中心に、他から自重激励の言葉があり、氏自身は「試みとして若し私の成績がよければ、将来婦人をも所長にしてやらうといふ市の心組みらしいが、それでは却つて有難迷惑、私などを試験台になさらずもっと本当に一般の社会事業に従事する婦人の力を認めて椅子を与へて頂きたい」といふのに対し、局長よりは「試みといふ丈でなく段々と女の方が所長にもなるやう取計らひます」といふお答へがあり、このところ婦人社会事業家の上に、新しい曙光を見せる喜ばしい事実としてこの会の話題を賑はした。

其他色々な方面から實際にあつての体験から色々な問題が忌憚なく語られたが、要するに社会事業家の位置を高めよ、優遇せよといふ叫びが中心であり局長と膝を交へての懇談で、この会が開かれたといふことだけでも、すでに一つの大きな進歩であつた様に思ふ。

かくて午後九時盛會裡に散会した。猶当日の出席者は下の様である。

千本木道子（七 家）矯 風 会
佐藤 綾子（十九 家）訪 問 婦
小林智恵子（廿七 社）内務省社会局保険部
志村 和子（卅三 社）帝大脳 研 究 所
石山 清子（廿三 社）浴 風 園
江花 ヤイ（卅二 社）訪 問 婦
五味百合子（卅二 社）母性保護 聯 盟
田沢とみ子（十九 家）桜楓会 託 児 所
秦 津哉香（卅一 社）同
堀田 音羽（卅 師）働く婦人の家
山本 てい（廿八 社）学 校 看 護 婦
錦織 文子（廿二 社）前大島隣保館勤務
小菅 克己（廿四 社）竜泉寺市民館保母
松前 敏子（廿二 社）陽 光 ホ ー ム
国安 ぬい（廿一 家）南千住隣保館
佐藤ヤス子（卅三 社）麻布市民館保母
日比野 操（廿八 社）寺島市民館保母
阿部まつい（廿六 家）訪 問 婦
金沢 清（廿七 家）訪 問 婦
小林 とし（廿五 社）訪 問 婦
出淵 みや（十七 国）訪 問 婦

谷野 節子(廿三社)警視庁工場課
 吉見 静江(十六英)興望館セツルメント
 植山 みち(廿七社)訪問婦
 石畑 とめ(廿三社)YWCA社会部
 藤原 千代(一 国)社会事業研究室
 出野 柳子(三 家)桜楓会社会部
 野宮 初枝(十六英)桜楓会社会部
 有岡 利久(十三家)桜楓会児童相談所

柴木 三浦(廿二社)社会事業研究室
 加藤 刻子(本科一)同
 吉川 真澄(廿八家)桜楓会児童相談所
 羽田野繁子(家庭週報部)
 外 傍聴者
 橘田三谷歌(卅三社) 竹本(浴風園) 釜井(学生) 完田
 (学生)
 1315号, 昭和十一年六月二十五日

社会福祉学科50年史関係年譜

(1921(大正10)~1936(昭和11))

年 代	日 本 女 子 大 学 関 係	社 会 福 祉 一 般	一 般 事 項
1921 (大正10)	(9)社会事業学部開設, 女工保全科14名, 児童保全科16名入学する。	(4)東洋大学に夜間の社会事業科創設。	(10)日本労働総同盟結成。 (12)ワシントン会議。 ○小作争議頻発
22		(4)社会事業専任理事官を1道3府6県に置く。 (4)少年院法, 矯正院法, 健康保険法(施行大正15.7)	(3)全国水平社創立大会。 (4)日本農民組合結成。 (7)日本共産党非合法に結成。
23	(9)関東大震災, 豊明館, 講堂, 家政研究館大破, 三泉寮滞在中の寮生はそのまましばらく滞在。 (9)金山寮に兵士駐屯。 (9)東京市社会局と協力, 桜楓会児童救護所を開設(上野公園小松宮銅像前)		(9)関東大震災。
24	(10)27日まで国産品奨励展覧会開催。 (11)桜楓会児童相談所開設。	(5)同潤会。 (6)東大セツルメント設立。	(1)第2次母権運動。 (4)フェビアン協会結成。 (12)婦人参政権獲得期成同盟会結成。
25	(3)社会事業学部第1回生, 女工保全科14名, 児童保全科16名卒業。 (9)桜楓会夜間女学校開設。	(1)恩賜財団浴風会設立。 (12)地方社会事業職員制公布, 社会事業主事を置く。	
26	(3)社会事業学部第2回生, 女工保全科15名, 児童保全科18名卒業。	(12)第1回全国児童保護会議開催(中央社会事業協会主催)	
1927 (昭和2)	(3)社会事業学部第3回生, 女工保全科19名, 児童保全科20名卒業。 (5)高等学部開校, 入学式。(修業年限3カ年, 入学生理科27名。文科54名。	(3)公益質屋法, 不良住宅地区改良法	(4)金融恐慌。 (6)立憲民政党結成。
28	(3)社会事業学部第4回生, 女工保全科22名, 児童保全科20名卒業。 (4)児童研究所設立。所長松本亦太郎。 (4)創立第25周年祝賀式, 総合大学予科高等学部開校式, 30日まで女性文化展覧会開催。成瀬先生伝, 成瀬先生追懷録発行。		(2)第1回普通選挙。

29	(3)社会事業学部第5回生、女工保全科25名、児童保全科14名卒業。	(4)救護法（施行昭和7.1→昭和21）	⑩世界恐慌はじまる。
30	(3)社会事業学部第6回生、女工保全科12名、児童保全科10名卒業。 (4)大学本科開校（修業年限3カ年、文科38名、理科19名、文科部長松本亦太郎、理科部長井上秀）		(4)ロンドン海軍軍縮条約。
31	(3)社会事業学部第7回生、女工保全科11名、児童保全科6名卒業。	(4)労働者災害扶助法（→昭和22）。 無産者託児所設置はじまる。	(9)満州事変勃発。
32	(3)社会事業学部第8回生、女工保全科2名、児童保全科4名卒業。		(4)第1次上海事変勃発。 (5)5.15事件。
33	(3)社会事業学部第9回生、女工保全科6名、児童保全科2名卒業。 (4)社会事業学部を廃し、家政学部第3類をおく。課程3年。 この年、卒業生の会桜樹会社会部に社会事業グループ会、結成さる。	(4)児童虐待防止法。 (5)少年救護法（→昭和22）	(2)日本国際連盟を脱退。 (3)三陸地方大地震大津波。 (5)滝川事件。
34	(3)社会事業学部第10回生、女工保全科2名、児童保全科7名卒業。	(4)恩賜財団愛育会設立。	(6)文部省に思想局設置。 (9)室戸台風のため関西地方大被害。 (12)ワシントン条約廃案。
35	(3)社会事業学部第11回生6名卒業。	(1)東北農村共同施設。	(1)美濃部達吉の天皇機関説問題化。
36	(3)社会事業学部第12回生3名卒業。	(11)方面委員令（→昭和21）	(2)2.26事件。 (3)内務省、メーデー禁止を通過。 (11)日独伊防共協定。

備 考

(1) 各事項の上につける算用数字は、月を示している。

(2) 一般事項は、一般史上主要と思われるもの、とくに社会問題に関連深い事件に力点を置いて記載した。その年の注目すべき傾向を示したものには○をつけた。

〔附〕 掲載したもの以外の資料リスト「家庭週報」より

号	年 月 日	題 名	筆 者
584	T. 9.10.15	桜楓会託児所後援会趣意書	丸 山 千代子 小 山 まつ子
589	T. 9.11.19	桜楓会託児所子供大会	
591	T. 9.12. 3	スミス大学の社会事業講座実地研究に没頭する十ヶ月	
593	T. 9.12.17	日暮里託児所の二周年記念	
594	T. 9.12.24	桜楓会託児所一周年記念の日（ほそや）	生 江 孝 之
597	T.10. 1.14	桜楓会東京支部の託児所後援観劇会趣旨	
600	T.10. 2. 4	託児所後援音楽会	
578 583	T. 9. 9. 3	内外児童保護事業一斑	
	T. 9. 9.10	#	田 子 一 民
642	T.10.12. 9	社会事業と婦人	
619	T.10. 6.25	特殊児童問題研究会に就て	
619	T.10. 6.25	児童問題研究の態度	
	T.10. 7.15		丸 山 千代子 檜 崎 浅次郎
621	T ~	東京市に於ける社会事業の一斑	
623	7.29		
651	T.11. 2.17	特殊児童の保護に就て	
	~ 3. 3		
654	T.11. 3.10		
665	T.11. 5.26		
667	~	児童保護事業の現状と残されたる問題について	保 田 貞 子
625	T.10. 6. 9		
625	T.10. 8.12	社会事業学部の要目	
625	T.10. 8.12	社会事業学部学科及び科目案	
633	T.10.10. 7	桜楓会の女子夜学校	武 田 真 量
644	T.11. 1. 1	日本女子大学校卒業生業務類別表	
652	T.11. 2.24	桜楓会託児所後援バザー	
654	T.11. 3.10	桜楓会託児所後援バザー	
654	T.11. 3.10	託児所より	保 田 貞 子
670	T.11. 7. 7	矢吹慶輝氏の講演	
673	~ 7.28		
672	T.11. 7.21	児童保護事業と残されたる諸問題に就て（五）	
692	T.12. 1.12	方面委員デーに参加した日の記憶	
693	~ 1.19		
702	T.12. 3.23	浮浪不良児の委託に就て	君 塚 貞 子
703	~ 3.30		
701	T.12. 3.16	ジェーン・アダムス女史の来朝	
674		巣鴨託児所母の会	
696		桜楓会女子共励夜学校の近況	
725		復興事業と救護事業	
717 718		不良少年問題	
716	T.12. 7. 6	ジェーンアダムス女史の入京其他	

号	年 月 日	題 名	筆 者	
724	T.12.10. 5	大震災と私共の学校	麻 生 正 蔵	
724	T.12.10. 5	日本女子大学の被害状況		
724	T.12.10. 5	震災記—動揺の十日間		
724	T.12.10. 5	罹災別記 — 善後処分録		
724 729	T.12.10. 5	罹災者調査報告		
724	T.12.10. 5	上野に開いた児童救護部		
724	T.12.10. 5	救護衣類部の活動		
725	T.12.10.19	東京聯合婦人会救護班に加って		竹 水
725	T.12.10.19	下谷区を受持ってミルク配給をした或日の感想		
725	T.12.10.19	配給車に乗って — 越中島古石場まで		
725	T.12.10.19	— 深川猿江町へ		
725	T.12.10.19	上野の救護部に加へられた授産所と診療所		
725	T.12.10.19	震災のあと託児所より	小 林 珠 子 小 柴 梅	
731	T.13. 1.18	全東京集団バラック居住状態一覧表		
734	～ 2. 8			
734	T.13. 2. 8	江東の栄養食給興所を見る記		
737	T.13. 3. 7	済生会の各病院を見廻る		
727	T.12.11. 1	母校の学生が総動員で罹災区の世帯調査		
745 780	T.13. 5. 9	桜楓会の社会事業見学の日に		
785		アメリカの婦人と社会事業		
750		ロンドン、サウスウオークに於ける女子大学セツルメン		
751		ト訪問記		
766		婦人社会事業の連絡会		
768		池袋の感化院		
778	T.14. 2.13	紀元節に表彰された社会事業団体其他		
779	T.14. 2.20	社会事業に御下賜金、主力艦の処分完了、不景気で発狂者と自殺者		
792	T.14. 5.22	社会事業大会、少年保護法		
825	T.15. 1.29	女子参政権と社会教化		
826	T.15. 2. 5	相互の理解と文通		
829	T.15. 2.26	社会事業に従事せんとする人々に		
831	T.15. 3.20	ニュージーランドに於ける児童保護運動とその施設		
844	T.15. 6.11	社会的自覚と婦人問題	矢 吹 慶 輝	
845	T.15. 6.18			
844	T.15. 6.11	母性擁護の新思潮とその範囲	生 江 孝 之	
845	T.15. 6.18			
842	T.15. 5.28	プロレタリアよ、社会学部の実施見学で日暮里の貧民窟訪問		
801	T.14. 7.24	託児所へ来る女の調査	生 江 孝 之	
811	T.14.10. 9	失業救済のため東京市の新事業		
	"	寡婦保護案反対		
	"	スペインの児童保護事業		
802	T.14. 8. 7	桜楓会夜間女学校の開設		

号	年 月 日	題 名	筆 者
808	T.14.9.18	桜楓会夜間女学校開始	
809	T.14.9.25	桜楓会夜間女学校記事	
812	T.14.10.16	桜楓会夜間女学校の昨今	
894	S.2.6.25	唯一の国立感化院武蔵野学院を視る(社会4年)	
931	S.3.4.6	第1回卒業生を出した桜楓会夜間女学校	
954	S.3.9.28	絶望の断崖にたつ人々	生 江 孝 之
1028	S.5.5.5	幼児愛護の二方面	生 江 孝 之
1029	S.5.5.9	廃娼運動に就て	久布白 落 実
1034	S.5.6.13	社会科学の進歩と教育及社会事業への影響	リ ン ゼ
1037	S.5.7.4	病める社会の児童	
1038	S.5.7.11		椎 名 竜 徳
1058		現代思想と宗教	
1059	S.5.12.19		矢 吹 慶 輝
1072	S.6.4.3	廃娼及び婦人公民権問題	星 島 二 郎
1079	S.6.5.22	乳幼児の愛護問題	生 江 孝 之
1122	S.7.4.1	桜楓会夜間女学校卒業式	
1093	S.6.9.4	婦人問題の転向	矢 吹 慶 輝
1134	S.7.6.24	農村の次三男問題	戸 田 貞 三
1148	S.7.10.14		
1149	S.7.10.21	大東京の社会事業を論ず	村 山 文 子
1150	S.7.10.28		
1144	S.7.9.16	今年度託児所のキャンプ生活	丸 山 千 代
1136	S.7.7.8	日暮里託児所を訪ねて	
1166	S.8.2.24	生活苦・失業難にあへぐ人々の為の施設各種事業を見る	社会事業学部
1167	S.8.3.3		
1168	S.8.3.10		
1202	S.8.11.24	社会事業グループ会	
1207	S.9.1.1	社会事業グループ会	
1213	S.9.2.16	水上小学校を見る	五 味 百合子
1226	S.9.5.25		江 花 ヤ イ
1227	S.9.6.1	新聞紙上に現れた「女性身上相談に就て」	五 味 百 合
1228	S.9.6.8	託児所所見	社会事業学部
1271	S.10.6.7	東京市社会事業概観と最近の動向	安 藤 文 司
1258	S.10.2.22	社会事業グループ懇談会	
1270	S.10.5.31	社会事業グループ懇談会	
1312	S.11.6.5	婦人は社会事業に進出すべし	栄 木 三 浦
1284	S.10.10.18	麻薬中毒患者救済事業に就て	生 江 孝 之
1286	S.10.11.1	母子扶助法案制定を要望して	富 田 栄
1294	S.11.1.10	社会事業と社会調査	戸 田 貞 三
1310	S.11.5.22	社会事業と女性	生 江 孝 之
1278	S.10.8.30	ある日のアダムス女史	
1286	S.10.11.1	全国社会事業大会に光栄の富田氏夫妻	
1284	S.10.10.18	母子心中の統計調査	

号	年 月 日	題 名	筆 者
1274	S.10. 7. 5	社会事業グループ会	奥 むめお
1291			
1293	S.11. 1. 1	聾啞婦人のホームに奮闘の丸山千代子氏を訪ふ	
1314	S.11. 6.19	社会事業座談会	
1329	S.11.11.20	母子ホームと父子ホーム	
1349	S.12. 5. 6	生江孝之氏古稀記念事業	
1315	S.11. 6.25	桜楓会託児所に寄せられた可愛い真心	
1315	S.11. 6.25	家族制度をどう考へる	
1318	S.11. 7.31	桜楓会託児所キャンプ記	
1336	S.12. 1.22	桜楓会託児所だより	
1338	S.12. 2. 5	親愛な我学部 of 報告	栄 木 三 浦
1340	S.12. 2.19		
1345	S.12. 3.31	桜楓会託児所のうれしい御報告	
1346	S.12. 4. 9	桜楓会託児所の第18回終了式	
1346	S.12. 4. 9	桜楓会社会事業グループ会	
1353	S.12. 6. 4	桜楓会託児所の近況	
1354	S.12. 6.11	主として社会事業方面に活動する人々を語る	
1334	S.12. 1. 1	母子保護法等の社会立法をめぐるて社会部の会	
1331	S.11.12. 4	社会事業研究発表会	

そ の 他 の 資 料

年 月 日	資 料 名	発 行 所	資料提供者
S.10. 4.	桜楓会員社会事業関係者氏名	桜楓会社会部	森 チ ェ 氏
T.15. 7.11	光	日本女子大学校社会学部編集係	"

註 Tは大正，Sは昭和の略である。

この他多数の写真を卒業生の方よりお送りいただきましたが、紙面の都合上、次にお名前を掲載いたしまして感謝にかえたいと思います。

大槻たか氏（22回生）、横山弘子氏（22回生）、井上千鶴子氏（23回生）、佐竹美恵氏（26回生）、斉藤政子氏（26回生）、川瀬晃子氏（27回生）、森チェ氏（27回生）

なお、本文中に掲載いたしました講義録は清水勝子氏（24回生）に提供していただきました。

あ と が き

この号では、とくに大正10年社会事業学部創設以降、昭和11年迄、つまり社会事業学部時代の史料および当時の教授ならびに卒業生への面接また郵送調査などの結果を集録した。さいわい、多くの方々から御協力をえて、貴重な思い出や史料を集録できたことは、心からの感謝である。ここにあつくお礼を申しあげたい。ことに故綿貫哲雄先生からの思い出話は、おなくなりになる5ヶ月前にうかがったものである。今は、貴重なさいごのお話となった。つつしんであいとうの意を表したいと考える。

来年は、さらに、家政学部三類時代の史料を蒐集する予定である。

なお、今年の仕事のほとんどは、社会事業学部第1回卒業生で、現みどり会（社会福祉学科卒業生の会）会長の大機たか先生が中心となってすすめられた。そのお力のまことに大であったことを、ここに改めて記しておきたいと考える。

その他史料蒐集、整理にあたったものの氏名は、下記の通りである。

特別委員	大 機 た か（22回）
研究室選出専門委員	一 番 ケ 瀬 康 子（43回）
	宇 都 栄 子（新制20回）
みどり会選出協力委員	遠 藤 節 子（46回）
	田 中 美代子（新制1回）
	島 田 広 子（新制6回）